

166
4/14

普通應用

東京 金櫻堂藏版

三体新用文

嶋田竹堂君編

080043-000-1

特19-349

三体新用文

嶋田 竹堂/編

M28

DAC-4172



特19
349

教科適用

島田竹堂先生編

漢體
俗體
雅俗體

三體新用文

東京 金櫻堂發行

序

旭日の光いやが上に輝き亘り將に全世界を照し宇宙
をして晝夜乃別ちあきに至らしめんとする寔に天祖
の遺詔し給へる天壤無窮の大日本國、嘗て武威を日清
の交戦に顯し萬國をして戰慄せしむるに止まらず内
に文物隆盛にして馬追ふ童草刈る乙女に至るまでも
文字あきものなからしめざるべからず是を以て今や
蝦夷の奥沖繩の濱に至るまで苟も皇國の恩澤に沐浴
するの地餐舍の設あらざるをかく兒童皆六才を以て
學に就かざるはなし然れどもその學課たる普通を以

て主眼となすを以て特一學課一專あるを得ず故に
僅一小學を卒へたるもの、如きハ日用必用なる往復
乃尺牘に於て不便なしといふべからず是れ此著ある
所以にして此足らざるを補ひ兼而晚學の輩を導き又
賈人の小价等賣舎一學ぶを得ざるものを教ゆんとし
此書三体を擧ぐ漢体の如きは目今日清韓の交渉一當
り是より益々新占領地一朝鮮の各地に益々交通往復
繁からんとするの今日其用殊一多からん亦學習すべ
きの價值あるべし

明治廿八乙未の春

天淵識

凡例

此三体要文ハ各題分ツニ漢体雅俗折衷体俗
体ノ三体ヲ以テス

三体同題ナルモ其意同シカラス讀者之ヲ誤
ルナカレ例ヘバ漢体ナル看梅誘引文ニ於テ
ハ野外ニ誘ヒ雅俗ニ於テ某公園ニ誘ヒ俗体
ニ於テハ友人某ノ庭ニ誘フカ如シ
祝賀、吊慰、時令、誘引、招聘、催設、

贈寄、問答、勸勵等ノ部門ヲ分カタズ只時
 令ニ始メタルモ順序ヲ追フテ一括スルノミ

漢體
 俗體
 雅體
 折衷體

三體新用文目次

- | | | | |
|-----|--------|------|----------|
| (一) | 新年ノ啓 | (十一) | 郊遊誘引之文 |
| (二) | 全 復書 | (十二) | 全 答書 |
| (三) | 寒中間候之文 | (十三) | 觀櫻誘引之文 |
| (四) | 全 復書 | (十四) | 同 答書 |
| (五) | 餘寒訊問之文 | (十五) | 招レ友賞レ花文 |
| (六) | 全 返簡 | (十六) | 謝レ賞花所レ邀書 |
| (七) | 看梅誘引之文 | (十七) | 暮春招レ友之文 |
| (八) | 全 復書 | (十八) | 全 復書 |
| (九) | 贈梅花文 | (十九) | 贈花之文 |
| (十) | 全 復書 | (二十) | 花所レ贈謝文 |

(二十一) 乞_レ花文
 (二十二) 全應乞文
 (二十三) 春夜招_レ友賞_レ月之文
 (二十四) 春夜所_レ招之謝文
 (二十五) 汐干誘引之文
 (二十六) 全 復書
 (二十七) 春雨問候之文
 (二十八) 全 還章
 (二十九) 贈_二初松魚_一文
 (三十) 初松魚所_レ贈謝文
 (三十一) 梅雨問候の文
 (三十二) 全 答章

(三十三) 贈_二新茶_一文
 (三十四) 新茶所_レ贈謝文
 (三十五) 螢狩を催す文
 (三十六) 螢狩同行承知之文
 (三十七) 暑中間候之文
 (三十八) 同 回謝
 (三十九) 約_二納涼船_一之文
 (四十) 同意之復章
 (四十一) 避暑誘引之文
 (四十二) 避暑誘引之復文
 (四十三) 温泉誘引之文
 (四十四) 全同行承知之文

(四十五) 招_レ友賞_二夏月_一文
 (四十六) 全 謝答
 (四十七) 夏夕對酌を友_二商_一る文
 (四十八) 全 答書
 (四十九) 花火見物誘引之文
 (五十) 全 還章
 (五十一) 贈_二夏菊_一文
 (五十二) 全 謝復
 (五十三) 贈_二牡丹_一文
 (五十四) 全 謝文
 (五十五) 初秋友人_二遷_一す文
 (五十六) 初秋答_二友人_一書

(五十七) 祭禮招_レ人之文
 (五十八) 同 復謝
 (五十九) 邀_レ人賞_二蓮花_一文
 (六十) 全 復書
 (六十一) 七種遊覽誘引之文
 (六十二) 同 返簡
 (六十四) 月見宴會之文
 (六十五) 觀月集會復簡
 (六十六) 贈_二果品_一之文
 (六十七) 果品所_レ贈復文
 (六十八) 招_レ人賞_レ菊之文
 (六十九) 賞菊所_レ邀謝文

(七十) 菊圃遊誘引之文
 (七十一) 全同行承知之文
 (七十二) 贈菊花文
 (七十三) 菊花所贈謝文
 (七十四) 看楓誘引之文
 (七十五) 全同意之文
 (七十六) 贈人紅葉之文
 (七十七) 紅葉所贈謝文
 (七十八) 聞蟲誘引之文
 (七十九) 全同行承引之文
 (八十) 時雨中間候之文
 (八十一) 全復文

(八十二) 賞雪誘引之文
 (八十三) 賞雪誘引之回文
 (八十四) 雪中贈酒之文
 (八十五) 全回謝
 (八十六) 歲暮之文
 (八十七) 全復書
 (八十八) 賀婚姻文
 (八十九) 復謝
 (九十) 賀出產文
 (九一) 全返簡
 (九十二) 賀新宅文
 (九十三) 全復章

(九十四) 病氣慰問之文
 (九十五) 全復章
 (九十六) 賀病氣平癒文
 (九十七) 全答書
 (九十八) 招醫者之文
 (九十九) 全答復
 (百) 賀入學文
 (百一) 全還章
 (百二) 祝官仕之文
 (百三) 全謝文
 (百四) 賀開店文
 (百五) 全返章

(百六) 問火災文
 (百七) 全謝辭
 (百八) 人を推舉する文
 (百九) 全承諾之文
 (百十) 謝周旋文
 (百十一) 贈未會人文
 (百十二) 從未會人見贈返文
 (百十三) 辭被招之文
 (百十四) 贈在遠方の文
 (百十五) 借物品文
 (百十六) 全復文
 (百十七) 借金圓文

- (百十八) 全 復文
- (百十九) 送洋行文
- (百二十) 同 復文
- (百廿一) 戒遊蕩人文
- (百廿二) 息人爭訟文
- (百廿三) 催促註文品文

- (百廿四) 依頼新聞紙遞送文
- (百廿五) 報訃之文
- (百廿六) 吊喪之文
- (百廿七) 賀筵招人文
- (百廿八) 祝賀筵文

目次終り

◎文ヲ作ル心得

文を作るの誠は六ヶ
 敷ことあり眞の文章
 は支那の韓退之歐陽
 脩蘇東坡諸公より我
 國よりの物徂徠柴栗
 山尾藤二洲古賀精里
 佐藤一齋頼山陽齋藤
 竹塲安井息軒等の諸
 先生の博學多才ある
 よあらざれば到底よ
 き文章の作り能はず

漢俗体
 雅俗体

三體新用文

(一) 新年ノ啓

漢体

元始之嘉兆、四海同禧、台屏無事
 添新洪福、不過之弊、盧一般頑如
 故伏請休神、是祈、聊述新年之嘉
 辭、猶期妍和芳草之時、稽首再拜
 雅俗折衷体
 玉曆頒付之慶儀、同歡共慶之至

るありされど文章も
詩歌も第一の要項と
する所の其意を達す
るを以て專一とし徒
らよ佳辞麗句を馴べ
て巧妙を字句の間
競ふ及ばず簡單
して事を辨する足
ればそれよきこ
とあり然れどもい
ら簡單を上乘とす
云假令ば年始の文

に候尊家齊整被成御重齡一恭喜
々々舉家無恙迎新年仕候御靖神
可被下候先は新端之祝儀稟述
度尙待雪融花開之時而已恐惶
百拜

俗体

新曆之御慶千里同風芽出度申
納候先以尊家皆々様御揃被成
御超歳奉欣賀候次に私方一同
無異加年仕候乍憚御心易思召

「新年お目出度う」又
ハ花見又人を誘ふ
「花見は如何又候や」と
のみよてもつまり用
事ハ足りることおれ
ども手紙の体裁ハそ
れずれ古來のあり來
りもあり此の如く簡
單よてハあまり不体
裁のと云ふ可し電
報等おれば固より宜
しけれども手紙とし

可被下候先は年始之御祝詞申
上度如斯に御座候恐惶謹言

(二) 新年ノ啓復書

漢体

萬象維新之時忽蒙賜瑤簡高居
一般無事添新福祚莫大於此矣
欣賀々々小家一般安穩迎新年幸
勿勞煩想茲布數字以爲祝新之
復辭謝々謹復

雅俗折衷体

ての不体裁と云ふよ
り高尙あること初
學の兒童といくら
解しがたく却て實
をささずとするも
員諸氏の其心して
授せられねば不都合
あるべし左は作文の
得數ヶ條を示す可
茲に筆と云ふ題と
正成と云ふ題あれ

采雲誦讀如尊命新曆之嘉兆欣
賀々々高居倍御清祐被成御越
年恭敬是不過候蝸盧老少無事
故移新候間御安神所祈候先は
祝新の回辭而已楮外契春融之
時候恐惶稽首
俗体
年首之御祝辭難有拜誦仕候大
厦倍御多祥被爲成御加齡奉恐
悦候弊家一同無事に加馬齒候

筆の方の其物体又就
きて其性質効用を記
述し補正成の方の其
人又つきて事實を記
載するを要旨とす而
して之を記述し之を
記載するより宜しく
注意すへきと能く
其物其人又就きて其
詳又すへき之を詳
又し省く可きと之
を省くもあり

間乍憚御省慮可被下候先者御
返事而已恐々再拜
(三) 寒中間侯之文
漢体
霜華襲地寒氣侵體尊体清勝喜
溢眉宇薄品一個聊表芹意而已
勿鄙大幸頓首
雅俗折衷体
凄風凜冽一嚴寒殊甚く候候彌
御清福奉賀候這品不願不腆供

書簡文の何分丁寧を
 本旨とすへし種々の
 書き方あれども無用
 の文字を駢列して冗
 長よ亘るへからず
 遠方の人あども遣り
 す書簡文の久々よて
 遣りす書簡よの用事
 の前よ先方の壯健を
 祝し或の如何暮すや
 と問ひ後よ當方の無
 事且の變り事を知ら

貴覽候寔嚴冬之御動靜拜問之
 寸徴に候耳再拜
 俗体
 時節との乍申寒氣甚敷折柄倍
 々御健全に被爲入珍重に奉存
 候就ては此品些少に候へ共任
 到來奉入御覽候誠に寒中御見
 舞之驗まで御座候頓首
 (四) 寒中間候之復辭
 漢体

せ然る後よ用事よ取
 掛るを宜しとす
 書簡文の成るへく漢
 語をぞを使用すべか
 らず
 書簡の始よの一書拜
 呈拜啓終よの頓首不
 一等其他種々の書き
 様あれども六ヶ敷と
 の用ゆべからず
 記事論説文の高等科
 以上の作文あれは茲

勁風嚴霜難耐時尊体近狀如何
 將呵硯氷修書辭何如忽接尊書
 且拜嘉祝之辱感德何極即今唯
 是回謝而已匆卒奉酬
 雅俗折衷体
 如尊諭嚴寒裂膚之候於芳容者
 愈御清祐奉拜慶候將に書辭を
 修めて御動靜可奉訊の處却て
 忝仁詢怠慢罪不可遁候且嗜好
 之佳品被下惠贈忝感戴仕候來

よの之を述べすこれ
 の其教師より聞くへ
 し
 其他心得あるべき
 事数多あれども却て
 繁冗な流れ初學の益
 なからざれば略す左
 な文の起首結尾を用
 る熟語及び人を呼ぶ
 稱名己れを用ゆる稱
 名數箇を記載して初
 學輩に便すへし

日登階之上可奉欽謝候也奉復
 俗体
 如仰寒威烈敷候へ共無御障被
 爲入奉拜祝候これよりころ奉
 問之筈之處却て御尋問に預り
 加之何よりの佳品御惠下被下
 重々奉恐入候尙近日昇堂萬謝
 可申上候拜答
 (五) 餘寒訊問之文
 漢体

書簡文の起首に用ゆる熟語
 拜啓。謹啓。拜呈。
 一書拜呈。一筆啓上。
 一翰拜呈。一書肅呈。
 寸楮拜呈。寸翰詳呈。
 前文涉容捨。前略御免。
 尺書恐呈。
 全結尾に用ゆる熟語
 謹言。敬白。敬具。

春信未遍殘寒殊甚高堂起居如
 何蓬窓幸無恙勿勞尊意小禽二
 翼以供厨下聊表獻芹微意而已
 謹言
 雅俗折衷体
 春色未至梅柳殘寒一段嚴敷覺
 候折柄文惟多祥喜躍之至候
 村醪一陶供尊覽候御泰否相偵
 候驗まに御坐候頓首
 俗体

頓首。再拜。九拜。
 百拜。多罪。敬陳。
 拜伏。叩首。頓首。
 不盡。不一。不具。
 不備。拜具。拜白。
 敬首。不乙。拜復。
 拜答。貴酬。復啓。
 奉答多罪。
 人の父を稱する熟語
 尊嚴。令嚴。令尊。

余寒難凌候へ共倍御清適奉欣
 悅候然ば過日一寸入御覽置候
 拙者新工夫の何品昨今成效致
 候間一個奉呈仕候も御使用
 に相成候は幸甚に候先は御
 安否相伺度如此御坐候草々
 不一
 (六) 同上返簡
 北風凜烈雪意未退時起居享嘉
 純喜畢集小弟之雀躍何過之爰

令椿。殿君。賢父。
 尊大人。御大人。
 御親父。御父上。
 我か父を稱する熟語
 家父。拙父。老父。
 家翁。愚父。
 人の母を稱する熟語
 令堂。萱堂。北堂。
 令母。尊母。賢母。
 御母公。御母上。

貢薄儀唯獻酬之微意而已奉復
 雅俗折衷体
 如來論春寒遼巡未及退去候へ
 共貴館御一統倍御康寧恐賀不
 過之候小弟亦幸に無異に候御
 休神被成下度候扱て雅品御惠
 賜に預り辱く拜戴致候這品微
 薄に候へと御挨拶の驗のみに
 候御笑留あらんとを祈り候拜
 復

我が母を稱する熟語

家慈。阿母。拙母。

老母。

人を稱する熟語

貴君。貴兄。盟兄。

雅兄。貴下。賢契。

貴臺。足下。盟臺。

貴殿。尊兄。尊君。

尊公。

自ら稱する熟語

俗体

如尊命余寒嚴敷御坐候處先以
て御盛康の由不堪雀躍候儲何
よりの品御恵み被下難有奉存
候猶近日伺候之上万謝縷述可
仕候也

(七) 看梅誘引之文

漢体

陋巷之小圃花兄漸發芳芬南枝
兩三點却有風趣今午下對此花

僕。余。予。拙者。

下拙。不佞。野生。

迂生。拙生。小生。

小子。不肖。

人の子を稱する熟語

賢息。令息。龍子。

御子息。(以上男子)

愛玉。閨秀。令愛。

息女。愛女。令嬢。

愛嬢。(以上女子)

欲催一酌兄倫得閑暇其肯來會
乎焉

雅俗折衷体

親友某生之後園梅花爭艷候由
稷郁首て春魁を占むるの風趣
聊り詠視は足ん就ては午下よ
り發車の志ありも御悠間
候は御同行如何候や奉伺

俗体

我が子を稱する熟語	痴兒。愚兒。迂兒。
愚息。豚兒。賤兒。	野息。小頑。頑兒。
賤息。痴息。倅。	登兒。(以上男子)
少女。愚娘。痴女。	娘。(以上女子)
人の妻を稱する熟語	令閨。令室。内君。

友人某氏之後園梅花盛開のよ
 くにて頗る促詠視候就ては今
 日一遊の致存立候貴君も御
 差支無之候はゞ御同行可被遊
 哉御誘引申上候頓首
 (八) 同上復書
 漢 体
 僕亦聞該園之風趣也久矣忽蒙
 看梅召命歡寧有究乎抛棄百事
 必陪清遊矣

貴婦。内寶。内室。	細君。内政。令閨。
令愛。	我が妻を稱する熟語
愚妻。小妻。賤妻。	野妻。荆妻。賤房。
家婦。家内。	人の兄を稱する熟語
大兄。賢兄。尊兄。	令兄。元房。

雅俗折衷体
 某園之梅花の奇絶なる稱は兼
 て承居候へと未だ其好機を得
 すして一遊を果さゞりしが幸
 ひにも御寵誘よ預り拊舞這事
 候當よ直ちよ趨赴せんのみ
 余は御面晤よ讓り候拜復
 俗 体
 某氏の梅園香艶見事に候由兼
 而承及候幸の御誘引よ預り難

我が兄を稱する熟語

愚兄。阿兄。拙兄。

家兄。

人の弟を稱する熟語

尊弟。令弟。賢弟。

貴弟。大弟。

我が弟を稱する熟語

舍弟。愚弟。家弟。

小弟。迂弟。

人の姉を稱する熟語

尊姉。賢姉。令姉。

我が姉を稱する熟語

愚姉。阿姉。阿姐。

人の妹を稱する熟語

尊妹。令妹。令姉。

我が妹を稱する熟語

小妹。野妹。小姐。

◎熟語いろは分

【イノ部】

郵便。衣裳。衣紋。

有奉存候午後これより参上に
及ぶべく候也

(九) 贈梅花文

漢体

破園之梅花漸含笑風香眞可愛
一枝敢供詩料矣

雅俗折衷体

小園の香魂始て蕾を破る非凡
の風趣君子の如く候兩三枝折
取謹而供清玩候頓首

俗体

弊庭の梅花昨今放香之處聊見
所も可有之候間一枝手折机下
に呈し候も御慰のかたはし
共相成候はゞ重疊し奉存候不
一

(十) 復書

漢体

辱芳園の瓊姿忽貯小瓶中拜翫
不措眞有會高士之思多謝々々

乾 印刷 從弟	紙 齋 僞 祈	野 鳥 賊 傷	蘭 席 田 舍 醫 者	忌 々 敷 愈 々 因 果	石 垣 柱 礎 因 緣	况 板 塀 入 用	隱 居 井 戶 暇 乞	茨 日 外 如 何	印 形 委 任 既 望
---------------	------------------	------------------	----------------------------	---------------------------------	----------------------------	-----------------------	----------------------------	-----------------------	----------------------------

雅俗折衷体
名園之魁花を辱し御厚志奉萬
謝候直一破瓶に移る候一うの
香色の清雅ある吟懷を慰むべ
く候不取敢御禮まで拜復

俗体

御園生の梅花御恩恵にあづか
り難有奉存候不取敢花瓶一扱
み愛觀仕候拜答
(十一) 郊遊誘引之文

漢体

夜來降膏雨風日協人村家之韶
景却可協吟情乎足下不欲一遊
否叩首

雅俗折衷体

一雨暖を生じや、輕暖融和之
時一及び野外拾翠之客も相見
え候由明日詰且より御伴行如
何一候や御左右奉待候也

俗体

家 藏 硫 黄 遺 言	生 命 地 爐 薄 暮	祝 依 賴 紡 車	椅 子 囚 循 芋 魁	幼 銀 杏 爭	鼯 鼠 異 名 印 鑑	犬 爐 意 外	異 見 肌 諫	飲 食 炒 豆 忙 敷	以 來 位 階 權 角
----------------------------	----------------------------	-----------------------	----------------------------	------------------	----------------------------	------------------	------------------	----------------------------	----------------------------

慰勞。古。違約。	鑄工。猶豫。抱。	居殘。眩人。稻刈。	妹。一週。無花果。	生捕。舟筏。勢。	錨。引導。痛入。	魚獄。屑。鱗。	種々。徒。委細。	勇。海豚。聲。	言渡。遺恨。頂。
----------	----------	-----------	-----------	----------	----------	---------	----------	---------	----------

近日之一雨より余程暖氣に相成野外之光景さこそと被推量候一日御遊行如何に御座候や伏而待貴答

(十二) 答書

漢体

陽和蕩駘之候郊外拾翠倍遊雀躍何加之唯是從命而已敬答

雅俗折衷体

問柳尋花之好時節野外隨所御

二下

狼狽。樓觀。六曲。	狼籍。漏刻。祿俸。	〔ろノ部〕	型。有志。一屑。	礎。維新。遠算。	雖。印書。違變。	同宗。遺詔。下劣。	蘭。一應。一泊。	移轉。一疋。否。	庵。石匠。電。
-----------	-----------	-------	----------	----------	----------	-----------	----------	----------	---------

遊覽之御供被仰付拵舞之至候御示教の時刻必ず參上可仕候拜答

俗体

東風軟々游情頻催之折節野外御遊歩之御誘引嬉敷存候御陪行無異儀候御返事迄勿々

(十二) 觀櫻誘引之文

漢体

春色凝粧櫻花媚人尋芳興其在

二十一

莫大。	版行。	萬國。	樓屋。	論辨。	樓臺。	樓下。	銅線。	網。	廊下。	浪人。	癆瘵。	魯魚。	籠城。	論外。	老人。	論題。	老衰。	老耄。	魯鈍。	蠟燭。	論議。	論判。	碌々。	碌。
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----

〔はノ部〕

此時乎聞墨堤十里遊人如織足
 下不同遊否伏乞陪遊叩頭百拜

雅俗折衷体

千紫萬紅各競嬋娟之時上野飛
 鳥の邊都人士袷服靚粧成試春
 遊候由君にも香世界之一宴は
 如何に候や御都合宜敷候とゞ
 只今より御陪遊願上申候頓首

俗体

四方の花盛よて向島あたり貴

緘線。	萩。	配附。	配達。	煙火。	勞働。	裸跣。	乍憚。	恥ヶ敷。	屬。	發狂。	癡人。	管店。	旅店。	半紙。	羽織。	機織。	博多。	談話。	逆旅。	破談。	發明。	晩方。	禿山。	萬福。	慧星。	烟。	剪刀。	端書。	萬端。
-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----

賤群集の由承り及び候御手透
 に候はゞ花下之一醉所望に候
 御都合如何に候や伺上申候百
 拜

(十四) 同答書

漢体

蒙命觀櫻之前驅欣舞々々僕恰
 閑散直應召矣謹復

雅俗折衷体

花邊へ御遊歩の御企陪遊被命

蜂窠。孕。	廢止。蠅。	拜誦。贖儀。拜聽。	刷毛。拜見。拜讀。	裸躰。白日。羽根。	飯米。肌。發賣。	陪臣。謀策。腸。	發兌。繁昌。判斷。	花園。花見。梯子。	墓。袴。肺病。
繁多。	權衡。	拜聽。	拜讀。	羽根。	發賣。	腸。	判斷。	梯子。	肺病。

万謝の至に候幸ひ今日は閑暇
 に候へば直に参趨仕可候風雨
 落花の痛歎を免かるゝを得る
 は實に足下の賜物に候後刻拜
 謁の上万縷申可述候稽首

俗体

花見御催ふにより御供に被
 召加候趣難有奉存候幸ひ小生
 も近日中一遊を試み可申心懸
 居候へと未だ好友を得ず獨歩

人選。任換。人情。	人形。肉親。肉骨。	〔以ノ部〕	花。鼻。缺。	灰。罰金。遙。	蛤。蠶。箱。	徘徊。橋。破約。	賣買。俚歌。俳諧。	流行。省。博奕。	柱。繁盛。繁務。
人情。	肉骨。	〔以ノ部〕	缺。	遙。	箱。	破約。	俳諧。	博奕。	繁務。

の詠賞も興薄からんと存じ今
 日まで躊躇致し居候處僥倖あ
 るとよ御坐候直様身仕度調ひ
 次第御立寄可申上候拜復

(十五) 招友賞花之文

漢体

陋巷山櫻時正滿開聊欲開小宴
 足下其來會乎仰俟照臨

雅俗折衷体

後圃の山櫻滿開致し候に付聊

似合。鈍愚。庭。	飯團。憎惡。柔和。	荷物。擔桶。入札。	入校。日曜。日記。	日限。入費。虹。	逃。驟雨。荷。	睥睨。握。荷車。	二階。人足。賑敷。	入學。入港。賑。	人氣。任官。任命。
----------	-----------	-----------	-----------	----------	---------	----------	-----------	----------	-----------

俗体

是祈申候頓首

か兩三之莫逆を會し山肴野蔌
 の一酌を催さんと欲し候貴君
 も御閑隙に候はゞ迅速御移玉

弊庭の山櫻満開致し候し付聊
 か小集相催候間貴君御手透に
 候えゞ御來車奉待上候謹言

(十六) 謝賞花所邀書

漢体

響。放蕩。翻譯。	鳳章。法律。褒美。	〔ほノ部〕	錦繡。日蝕。	苦味。入梅。樓梯。	膠。忍辱。販賣。	荷物。鮮。妊娠。	胡蘿蔔。俄。入門。	贖物。煮肴。濁酒。	鶏。表染。葫。
----------	-----------	-------	--------	-----------	----------	----------	-----------	-----------	---------

雅俗折衷体

因見開雅會高園之花下僕亦辱
 召募之命盛寵殊爲深必當應召
 拜復

芳園に於て瓊宴を開れ候由
 て小弟をも御席末に加へられ
 御厚寵の不淺奉感謝候御示刻
 屹度參上仕可申候先は御返事
 まゝ余は後刻面謁の時に譲る
 不一

楚鐘。夜賞。捕縛。	書肆。發句。奉公。	豊年。庖刀。豊作。	歩行。卸。發端。	反古。牡丹。保存。	奉納。發火。奉職。	梵字。坊主。方丈。	帆檣。僧。朋友。	本家。本意。塚。	拂子。報告。法螺。
-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	----------	----------	-----------

俗 体

賞花の御宴被爲開候により御
 倍席被仰付御愛顧の段忝奉存
 候無才の某雅會を汚さんも恐
 多く候へ共御召に從ひ時刻に
 と相違なく參候可致候先と御
 受まで如此に御座候不宣
 (十七) 暮春招友之文

漢 体

一夜風雨東帝將歸駕今若不試

〔へノ部〕	凡夫。凡人。細。	本懐。僕。統。	佛。保養。菩薩。	暴徒。茫然。痘瘡。	益裁。鰯。報知。	筮。骨折。程。	糠糲。誇。子規。	星月。忘却。法則。	本望。味旦。募集。
-------	----------	---------	----------	-----------	----------	---------	----------	-----------	-----------

雅俗折衷体

一遊_{いちゆう}恐背_{おそむせ}三春_{さんしゅん}之本意_{ほんのい}聊開_{りょうか}小宴_{せうえん}
 欲伸_{ほつしん}雅懷_{やわい}伏而_{ふして}俟_{まち}來臨_{らいりん}矣

九十春光一場の夢の如く忽ち
 春晚と相成候就ては拙生の別
 莊は残花も有之候まゝ送春
 の小宴を開かんと存じ候足下
 御多忙にも候はんの何卒要件
 御綜錯にて御光臨是祈候頓首

俗 体

陛下。僻邑。勉強。
 兵隊。勉勵。便利。
 返事。返答。返簡。
 返却。辨論。病氣。
 蛇。弊害。平均。
 返濟。屏風。兵士。
 平民。別家。兵卒。
 兵糧。幣束。返濟。
 臍。辨當。紅。
 平日。別冊。別紙。

昨日今日と存せし内早くも暮
 春と相成候聊送春之一宴相催
 ぞべき心組候間何卒御差操
 御來臨之程奉祈候百拜
 (十八) 復書
 漢体
 忝雲翰因見開送春之筵僕亦蒙
 寵招雀躍何堪矣唯是應召而耳
 稽首

雅俗折衷体

別段。平生。閉口。
 諛。〔と〕部
 德育。德行。德儀。
 徳望。得失。土木。
 滯。兎角。頓才。
 逗留。到底。凍餓。
 蕃椒。篤實。友達。
 都鄙。都雅。都會。
 投票。頓首。道理。

紅紫半は謝して春色稍衰ふの
 候御別堡に於て惜春の佳會御
 催ふしより小生までも寵招
 を辱ふし芳情感謝に堪えず候
 先は御請まで不悉
 俗体
 如尊命三春將盡と相成候處御
 別莊に於て惜春之佳會御催ふ
 しの由にて御招にあづかり難
 有御請申上候拜答

驚下。都督。當時。	統轄。肩。華表。	獨立。棟梁。時計。	冬至。到來。盜賊。	豆腐。討論。毒藥。	泊。堂々。床店。	吊。年寄。徒然。	戶棚。土藏。同盟。	董正。螳螂。取消。	同等。篤行。等級。
-----------	----------	-----------	-----------	-----------	----------	----------	-----------	-----------	-----------

捕。虎。頓智。	到着。問屋。齋。	唐突。同道。咄々。	銅貨。同伴。隣。	銅版。銅像。豚兒。	統督。取締。頭取。	取調。取扱。統一。	德利。綱。突然。	燈心。當路。驚鈍。	當直。逃亡。燈火。
---------	----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------

(十九) 贈花之文

漢體

叢庭小櫻嬋娟倍常年爲君折一枝
請賜愛賜叩頭百拜

雅俗折衷體

破園の白桃意外之満開に付一幹を折敬て清玩に供を若妙句一聯を添られ候はゞ此花更に光輝を増ん頓首

俗體

此花庭前之早咲にて今春の思の外なる満開に候まゝ一枝折取奉入御覽候一句を賜はらば花も亦満足可仕候不宣

(二十) 花所贈謝文

漢體

仙院名花不自與衆芳同蒙一枝之佳貺感風韻高然勝受千金之賜喜慰何極即詠一聯乞叱正只怯拙詩難與名花偶敬復

磨。届。禽。

遠。土臺。

〔ちノ部〕

智徳。中興。著述。

鳥渡。沈着。中央。

提灯。沈溺。中元。

力持。嫡嗣。契。

知己。治療。沈醉。

打擲。忠告。地租。

沈黙。手洗鉢。調査。

鎮臺。茶筌。徵兵。

地球。縮緬。父。

珍重。調子。着手。

躊躇。頂戴。鱈。

智力。馳走。智識。

治世。喋々。智恵。

注文。中止。持病。

注意。塵紙。茶棚。

遅刻。茶釜。茶杓。

朝鮮。帳面。乳。

雅俗折衷体

櫻樹御新裁之處昨今十分開發
により御恩賜に預り殊更艶麗
に驚き入愛花の余情筆紙に盡
し難候先は不取敢御禮まで勿
く不宣

俗体

御庭の花態く御遣し被下如何
も見事の至愛賞不一方早速
花瓶に挟み詠種に供へ申候先

は御禮まで拜復

(廿二)乞花文

漢体

今午下邀賓牀頭無可充華飾者
敢乞賜後園花一枝謹言

雅俗折衷体

今日午後去方より來賓有之候
筈の處床間の插花無之に困入
申候事頗る唐突にして如何に
も恐縮の至し候へ共芳園の桃

賃錢。血筋。兒。
嫡子。盟。違。

〔りノ部〕

龍顏。臨幸。理外。
兩端。利發。利殖。
力量。離別。吏員。
恻氣。琉球。利慾。
淋漓。淪落。六合。
離縁。良友。凜然。
立派。履歷。留別。

季數枝頂戴仕度渴望の至いたりに堪たず候再拜

俗体

今日遠方よりの珍客の處差當り挿花無之不都合に御坐候近頃申上兼候へ共御庭園之花何あり共一二種頂戴仕度奉願上候百拜

(廿二) 同上 應乞文

漢体

良人。留飲。隣閭。
領收。流儀。力作。
流連。利益。料理。
客齋。臨席。利害。
饜龍。理解。理屈。
量見。立身。律令。
綸言。良法。良媒。
掠管。林檎。療治。
痲病。瞭然。痲疾。
痲病。閭閻。利息。

采雲拜誦因有來賓足下望小圃花卉滿悅何過之只恨無美花兩三枝附貴价奉坐右不知適尊意否頓首

雅俗折衷体

花枝御所望之段奉畏候破園中幸此花昨今纔あつたに放香はなより則ち折取貴价に附して進呈致候格別珍奇のものにも無之候尊意いに適するや否やを知らず只

臨時。隣縣。料簡。

隣家。隣村。了承。

廢掠。了知。兩替。

良智。凌侮。龍種。

〔ぬノ部〕

幣。縫物。温湯。

塗物。偷兒。塗師。

布。濕。抽。

主。盜人。脱。

〔るノ部〕

留別。累世。累功。

留題。留守。累勝。

瑠璃。流浪。累縈。

〔をノ部〕

恩典。恩人。落付。

重荷。温絶。温顔。

温順。情。恩義。

臆病。面白。思召。

粉白。重。置。

臆説。温和。恩寵。

御命に從ふの具不具

俗体

活花御入用の由承知仕候弊園
中幸ひ此花開初候間爲持さ
上候只折よあへたる耳にて別
段新奇乃品も無之甚た慙入申
候先は御返事まで匆々
(廿三) 春夜招友賞月之文

漢体

輕烟淡々天無片雲春月嬋娟何

人不賞今夕於蓬堂開小宴擬桃
李園之遊足下若有意臨焉

雅俗折衷体

今宵は一朶の雲もなく空晴れ
渡り月影も左社と被想像候幸
ひ破圍の梨花昨日今日十分開
充ち空よ知らぬ雪景色よ候
へば聊か春宵の遊を催し度す
でよ山酒野肴を調ひ候御閑隙
に候はゞ是非御來臨を俟つ不

啞。	惜。	凹凸。
恩愛。	遲。	踊。
慍色。	恩威。	音信。
穩當。	溺。	趣。
億兆。	恩遇。	御蔭。
納。	應變。	表。
押入。	恩情。	追々。
穩。	恩願。	應接。
起。	和尙。	折節。
弈。	伯父。	領。

悉 俗 体

本宵は少の風もなく至て穩の候得バ月も詠も一入と奉存候幸ひ小園の花満開致し候間一酌相催し度御來駕奉待上候頓首

(廿四) 春夜所招之謝文

漢 体

月有清香花有陰者蓋双美之會

和睦。	往事。	渡。
猥雜。	彎環。	譯柄。
忘。	綿菱。	枕。
草鞋。	我儘。	惑衆。
私。	横着。	態々。
王命。	王子。	猥褻。
〔わノ部〕		
恐入。	應對。	慥入。
恩賜。	叔母。	甥。

合也寵招奈何得辭乎放了他件一當刻下趨赴謹復

雅俗折衷体

春宵花月之遊宴は實は人世の快樂は候幸ひ御寵誘に任せ他事は管せず即刻敲關可仕候余ハ拜顔の時譲り候

俗 体

月花双絶乃壯觀者難得之事は候間御招は任せ御遠慮不致即

往返。割木。

〔かノ部〕

簡牘。更張。書物。

官員。更新。隔歲。

家内。蝦夷。簡捷。

改革。解官。家屋。

紙屑。簪。傘。

解顔。瓦斯燈。我慢。

簡易。蚊帳。看板。

堪忍。冠。艱難。

釵。學校。簡忽。

畏。格別。稼。

家宅。隔絶。家督。

腕。合併。悲。

感佩。隔年。陷阱。

姦吏。看病。寒胃。

開拓。可愛。重。

竈。開鎖。考。

開墾。甲斐。開業。

會而。笠。開誘。

事參堂仕佳筵を瀆し可申候

(廿五) 沙干誘引之文

漢体

一兩送暖春色已整時將試海岸
拾貝之興已僱遊舟一葉其肯來
會乎願候焉

雅俗折衷体

俄催春暄候折柄本日と恰も舊
曆上已に當り候へは兩三輩申
合せ沙干狩之一遊可致と存じ

酒饌の準備も調ひ候足下若御
同遊に候とゞ後刻仙扉まで拜
趨可仕候

俗体

本日と殊更長閑に候へは品海
の邊にて沙干之遊可致と存ト
聊か用意も致し置き候間御閑
暇に候はゞ御同遊如何に候や
奉伺候也

(廿六) 同上復書

兼而。勸辨。豫而。	開港。忝。勸當。	下婢。苛酷。骨牌。	嵩。奇法。恰好。	寒氣。概見。感心。	感服。遐邑。必。	簡略。介抱。邂逅。	鑑札。要。覺悟。	旁々。炊。感泣。	釜。
-----------	----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	----------	----------	----

漢體

華墨誦讀因所試拾貝之雅興蒙
 盛寵多謝々々近來無一快事苦
 無聊何得辭乎當應召拜復

雅俗折衷體

拜誦細君令愛御一所よて沙干
 狩思召被爲立候趣よて弊族に
 まで御供被仰付感謝の至に候
 幸ひ獨坐無聊の折柄何よりの
 逸興と奉存候一族引連直よ參

〔よノ部〕

妖怪。與隸。養育。	用意。與謀。與望。	用心。養子。庸醫。	養生。様子。宜敷。	無據。涎。庸劣。	夜着。幼少。嫁。	翼蔽。要用。甬道。	豫防。無餘儀。恣心。	餘裔。呼奇。要鎮。
-----------	-----------	-----------	-----------	----------	----------	-----------	------------	-----------

趨可仕候勿々

俗體

品川最寄よて貝拾ひの御慰み
 御催しにより御誘引被下難有
 奉存候幸ひ退屈し罷在候折節
 如何ばかりか面白き御事と樂
 居申候只今身仕度調次第參上
 可仕候先と御請まで余と御面
 晤の上万縷可申述候勿々

(廿七) 春雨問候之文

能々。餘裕。輿論。

夜中。翌日。夜店。

〔九ノ部〕

太政。大典。寶物。

田畑。大臣。大任。

太平。大施。体育。

箏箏。大赦。魂魄。

偶。踏荒。體操。

縱橫。蕘。煙草。

怠惰。探偵。探索。

漢体

連日春雨不勝鬱深時未審動止
之何似若莫障雲冀與足下共學
坐隱焉

雅俗折衷体

雨絲日々地塘盡く緑なるの候
實に倦退に堪ず候足下近狀如
何に候や泥濘行歩に便から
候へ共御遮障無之候はゞ一局
黑白の雌雄を決し申度御枉車

短刀。退散。彈糾。

慥。短氣。待遇。

澤山。足袋。旅立。

赧顏。棚。頼。

逮捕。大變。泰平。

打破。假令。探報。

大切。卓爾。大抵。

彈劾。容易。卓量。

踏破。滯在。多分。

痰咳。丹心。丹精。

待上申候

俗体

無絶間春雨濛々敷徒然の至
候如何御幕被遊候無御差支候
はゞ參堂の上一番の勝負相試
度候御都合如何に候や伺上申
候頓首

(廿八) 同還章

漢体

辱示戰書連日濛雨吾軍甚苦無

丹鶴。旦那。丹壁。
刀癥。退屈。

〔れノ部〕

歴史。歴観。禮儀。
厲鬼。連帶。練磨。
蓮根。廉直。例年。
憐察。屬精。戀慕。
禮節。廉價。黎民。
靈魂。歷落。練瓦。

〔そノ部〕

聰明。相違。相續。
相應。總括。早朝。
齟齬。束縛。遭遇。
掃除。蒼蓋。卒然。
雜糞。足下。雜巾。
奏任。詛呪。葬式。
抑々。素志。粗末。
袖。相談。造作。
素發。總計。測量。
其儘。甦生。蘇生。

言事請幸試一進擊吾亦謹待之謹

雅俗折衷体

促戰之羽檄拜誦仕候春雨蕭々
無聊只折々唾魔軍に襲れ候耳
好敵は望む所以候妙籌奇策之
を胸中に藏す足下請來て之を
試よ不具
戰書の趣承知仕候昨今春雨中

俗体

之無慘不堪倦退候間御相手ハ
望む所ニ候即刻御枉駕待上申
候拜復

(廿九) 贈初松魚文

漢体

即今得松魚一尾新鮮聊可味不
愧些物恭供厨下兄則方今之易
牙也雖不知己属陳腐哉否幸叱
存焉

雅俗折衷体

損徳。騒動。蒼生。

算盤。染物。背。

總理。僧侶。

〔5ノ部〕

追想。無恙。積。

痛哭。妻。通商。

都合。通徹。爪。

司。通宵。通夕。

勞。途。連。

賦。盛。通國。

何濱の漁父初松魚の由よて頗
る誇り吳候間乍些少供尊覽候何
事も新奇を好せられ候貴下に
候へは新と稱するに足ぎと雖
御笑留被下候は幸甚

俗体

只今懇意之漁父より初鯉とて
贈り吳候間一尾入御覽候乍然
全盛之貴君故最早陳腐は屬し
候歟御叱存被下候者幸甚

(三十) 初松魚所贈謝文

漢体

松魚之新者都人之所嗜也吾輩
寒生未喫初鯉之妙味寵賜不堪
感謝命家僮宰割而以浴甘美之
惠

雅俗折衷体

未だ噂よさへ聞のさる初鯉御
惠贈被下難有奉存候一家打擧
り賞味可仕候此品薄儀に候へ

通運。通常。通計。	序。綱。薊。	追討。翅。使。	堤。募。追伐。	鼓。詰。塊。	罪。葛籠。圮。	露。包物。燕。	釣。翼。追善。	審。償。繫。	釣瓶。
-----------	--------	---------	---------	--------	---------	---------	---------	--------	-----

〔ねノ部〕

年來。年載。眠。

念願。懇。年齒。

念入。忍。念佛。

直段。猫。熱。

鼠。佞辨。佞人。

熱血。熱淚。願。

年季。寢。

〔なノ部〕

乃至。南廂。南廳。

姦人。梨。難題。

難。何卒。南京。

習。並。猶。

泣。納戸。内室。

涙。苗。内應。

内通。馴染。名乗。

内訌。永々。内附。

霖雨。情。長家。

乃公。長持。渚。

〔らノ部〕

共返酬の驗のみに候拜復

俗体

聾だに聞りぬ新鮮に初鯉御贈
被下感謝の至は御座候早速打
寄一同頂戴可仕候先は不取敢
御請まて余は不日参館の上御
禮可申述候

(三十一)梅雨問候の文

漢体

黃極之氣候暖雲濛々不堪鬱悒

足下近狀如何今午下欲開詩筵
來臨平謹待之矣

雅俗折衷体

霖雨濛々如何よも物寂しく候
折柄御高堂御一統動靜如何よ
候や陳者關西韻士頃弊廬に客
たり仍而同好乃士を會し分韻
即賦の一興を催さんと欲す先
生にも御臨會あらんと伏て奉
待上候謹啓

落魄。落雷。來客。

來車。來駕。狼狽。

懶惰。落札。磊落。

亂暴。埒明。勞苦。

勞働。雷鳴。蘭。

欄干。

〔むノ部〕

無知。睦敷。六敷。

無情。無頼。無理。

空敷。無辜。無能。

俗体

梅雨日々寂寥の至は候借へ上
方より兩三名之韻士も逗留致
居候間分韻の一興よても可相
催哉と存候雅兄にも何卒御
臨席被成下度奉願上候頓首

(三十二) 同上 答章

漢体

梅霖濛々日學宰予氏轉寂然矣
適諸名士會于高堂互門詞藝風

無論。無聊。迎。

無心。無法。智。

無官。冤。進。

無益。寧。梅。

〔うノ部〕

宇宙。羽觥。羨敷。

運輸。虛言。鬱陶。

迂拙。迂僻。運動。

嬉敷。迂濶。迂遠。

運籌。請負。請取。

韻可慕忽蒙高招雀躍何如當應
召謹復

雅俗折衷体

如來教梅雨濛鬱如何にも物寂
しく候聞く上國の高士花邸よ
ありて諸君子之よ會ひ各々詞
華を競はれ候由嚙り御盛會
乃御事と被想像候小弟の不才
淺學なる固よ初高筵に侍るを
得せと雖拜見旁々直よ伺候可

鬱々。歌。浮。	疑。雲母。謠。	泛。兔。蘊意。	鱧。運送。鶉。	植木。自惚。鶉。	〔るノ部〕 ニアリ	〔のノ部〕	農商。鋸。海苔。	罵。鬩斗。長閑。	濃淡。農家。農務。
---------	---------	---------	---------	----------	--------------	-------	----------	----------	-----------

仕候拜答

俗体

霖雨之鬱悒實に尊命の如くに
 候然ば上方の名士御集會よて
 被競錦繡候よし拜見旁々早速
 御伺ひま可及候先は御返事ま
 で余は參堂の時に可致候頓首
 (三十三)贈新茶文
 漢体
 小園之新茶蒸焙已成矣此一瓶

暖簾。法。軒。	咽喉。望。糊。	鑿。蚤。呪詛。	除。不殘。	〔れノ部〕 ニアリ	〔くノ部〕	皇威。回章。會計。	皇統。寬仁。會議。	科料。皇祚。懷中。	勸解。懷妊。還幸。
---------	---------	---------	-------	--------------	-------	-----------	-----------	-----------	-----------

不願菲少獻奉之粗葉只有新茶
 之名稱而已幸叱存焉

雅俗折衷体

家園培養之茶今年初めて摘取
 候て手製を試み候乍寡少進呈
 致候たゞ新茶乃名乃こよて風
 味も如何と存じ候へ共御笑留
 被成下候はゞ難有存候不備
 俗体
 家園の茶當年ハ至て不出來に

君子。	管轄。	驅使。	國許。	官機。	臭。	貨財。	愚札。	過日。	車曳。
草臥。	驅逐。	關係。	委敷。	雲。	貨賂。	闇。	貫徹。	驅騁。	群臣。
愚鈍。	寬洪。	供養。	管絃。	管見。	苦勞。	暗。	火事。	供養。	葦酒。

は候へ共昨今新製致し候間少
分あがら御覽よ入せ申候再拜
(三十四) 新茶所贈謝文
漢 体
芳園之新茗蒙惠賜感德何極僕
珍之如龍鳳團活水以烹枯腸頓
潤多謝々々
雅俗折衷体
令尊御丹精の御茶澤山御惠贈
被下御芳志忝奉感謝候即刻一

活潑。	訓誠。	悔。	酌。	慈姑。	區役所。	桑。	活眼。	鍛。	碎。
空腹。	官府。	暮。	櫛。	訓導。	吳々。	軍勢。	轄達。	過失。	暗。
線合。	愚痴。	詛言。	公事。	水鶏。	緩歩。	軍艦。	豁然。	緩急。	暗。

煎相試候處風味の高尙ある老
練ある製法殆感服の至に候先
そ不取敢御禮まで勿々拜答
俗 体
御新製之御茶御分配被下難有
御禮申上候即ち一椀頂戴仕候
處格別之味感心仕候右羊羔一
函到來に任せ御移りの驗まで
に御使し願上進呈仕候御笑留
被成下候は幸甚

〔やノ部〕

役所。約誓。邸。

耶蘇。夜警。約束。

養育。野心。役場。

洋學。養生。洋夷。

伴走。安。厄介。

雇。屋根。病。

藪。夜具。爺嬢。

嬌。瘦。稻。

譯官。優。廟。

薯蕷。乃。鑑。

休。柔。揚々。

倭。

〔まノ部〕

孟宗。漫々。磨琢。

慢侮。卷紙。卷物。

磨滅。招。埋伏。

任。埋葬。麻乱。

祭。味旦。交。

眉。埋伏。真似。

(三十五) 螢狩を催す文

漢体

仄聞某水邊螢火盛矣今夕一觀
而以動搖吟魂足下不同遊哉否
謹而待命不具

雅俗折衷体

近村の野水某橋邊へ近來螢火
壯觀を呈し候由傳聞致候晩餐
後納涼あから御遊觀如何に候
や肯て貴意を問ふ謹言

俗体

近村某之地へ昨今螢澤山のよ
し承を及び候今夕納涼旁御散
歩如何に候や奉伺候頓首

(三十六) 螢狩同行承知之文

漢体

散亂集合爲風所變化或一團光
明或疎々流星實螢火之壯觀也
余欲一觀未果之忽蒙清誘雀躍
何如必當應召謹答

蔓延。眞平。未拔。

罷在。末路。間違。

誠。紛。棋。

迷。曲道。呪。

〔ひノ部〕

縣廳。謙遜。原因。

闕如。權理。惠賜。

建言。計算。決定。

賢固。血統。景色。

絃歌。決死。見物。

稽古。言行。家來。

警察。野紙。決心。

言辭。儉約。検査。

怯情。嚴寒。現在。

怯怖。喧嘩。惠與。

協同。藝人。健全。

激勵。建築。結構。

月給。經綸。揭示。

輕蔑。輕少。計策。

形勢。獸。原告。

雅俗折衷体

某之地の螢火散亂奇絶の由ハ
小弟亦之を知れり一度行觀ん
と存ト居候へしも吟友を得ず
躊躇致居候處忽ち籠招を辱ふ
と欣躍の至に御坐候静境之光
景一入と奉存候後刻屹度參上
可仕万縷其節に譲り申候拜復
某地の螢火見事なるを小生も

俗体

先日傳聞仕候へと未だ參り兼
居候折柄幸御供被仰付難有奉
存候夕飯後御宅迄參上可仕候
先と御返事迄勿々
(三十七) 暑中問候之文

漢体

熇暑逼人汗背不遑拭候高堂近
狀如何小生仍蔭無異莫煩尊慮
久缺候間疎懶之罪無所遁聊貢
荒儀謹此伏候恐惶々々

化粧けしやう

〔ふノ部〕

憤發ふんぱつ 振舞ふりまひ 侮辱おちよくだ

憤懣ふんざん 夫婦ふうふ 布告ふこく

不朽ふくしう 故郷こきやう 不肖ふせう

不都合ふつがふ 不束ふつつか 不抜ふはつ

普請ふしん 囊ふくろ 再また

不逮ふたひ 不埒ふらち 不人情ふたんにやう

不敏ふびん 忿怒ふんご 不實ふじつ

不沙汰ふさた 不良ふりやう 吹聴ふいてう

不豫ふよ 撫育ぶいく 不自由ふじゆう

風呂敷ふろしき 不偶ふぐ 不敬ふけい

浮説うきせつ 布達ふたつ 懷ふとろ

冬ふゆ 防ふせ 伏罪ふくざい

鮒ふな 襖ふすま 舟ふね

符合ふがふ 鱒ふな 豚ぶた

風聞ふうぶん 合ふくむ 塞ふさ

臥ふし 分明ぶんめい 普通ふつう

復位ふくい 觸ふれる 不孝ふこう

分別ぶんべつ 侮言おちよくだげん 不景氣ふけいき

雅俗折衷体

溽暑じゆじゆ 不能耐候御尊堂あまのまへにたのむ 御尊堂ごそんどう 皆々みなみな 様如さまごと
何起居被遊御坐候なにきよまはれあそびまはせ 御坐候ごまはせ や弊屋へいゑ 一統いつとう 如ごと
無事むじ 候御休神被成下度候ごやすみかみまはせ 此この
品しち ハ乍さ 龜末かめすえ 暑中御見舞あつなごみまひ 乃驗なりしるし ま
でに御坐候謹言ごまはせごんげん

俗体

酷暑こくしよ 乃砌御家内中御變なほかきごけいうちごかはり もなふ
御暮ごくら じに 候ご や伺上候小宅うかがひごせうたく 皆々みなみな
無事むじ に消光せうかう 罷在候まかりありご 乍さ 憚御安心おぼろごあんしん

被成下度候此品まはせくだごご 甚輕少せきけいせう に候へ
共北國ともきたくに よりより の到來きたり に候ご まま 晋しん
呈致候ていせいご 先まづ 時とき 下御見舞くだごみまひ の印しるし 交まじ
でで にに 如此ごとく 候ご 御座候頓首ごまはせごんげん

漢体

泰問候之玉書たいもんごごのたまがき 且賜以佳品多謝またたまはせよ
々々さまざま 暑あつ 姦動かんどう 中傷ちゆうしやう 於人請足下少ひとをこし
加護焉謹復辭かごをよごんふし

雅俗折衷体

〔こノ部〕

公卿。	公平。	公務。
公用。	公道。	今朝。
今晚。	國會。	小供。
古語。	公務。	巨燧。
興起。	國務。	此頃。
古雅。	公使。	拵。
酷暑。	腰。	興廢。
國際。	懇願。	固有。
口論。	碁盤。	戀敷。

如尊命炎威赫赫々々難堪之候尊体
 倍御無事之段奉賀候然は何よ
 りの雅品を拜戴し千謝辭よ盡
 り難く候不日參候の上万縷可
 申述候拜答

俗体

大暑凌ぎ難く尊命の如く候
 倍御清勝奉賀候しかれば何よ
 りの避暑物御遣し被下難有奉
 存候隨て這品不取敢御答復之

固陋。	國益。	交際。
國威。	顧問。	故郷。
言葉。	國法。	婚禮。
後見。	交代。	忽然。
懇意。	國恩。	後悔。
固辭。	好。	衣。
口實。	講釋。	答。
殺。	志。	後患。
込合。	筭。	困却。
昆布。	穀物。	試。

兆迄に敬備仕候時下炎熱折角
 御自愛可然候勿々拜答
 (三十九) 約納涼船之文

漢体

炎威灼々陋室頗苦熱將同浮舟
 於二州橋邊飽納清涼待至黄昏
 踏月而歸豈不快哉尊意如何不
 同遊哉否請惠復音

雅俗折衷体

夏雲作奇峯候へ共更に一滴乃

鏗。琴。孤兒。

懇願。聲。肥。

胡麻。向背。向後。

香奠。悉。凝。

細密。

〔夕ノ部〕

欲慮。謁見。延引。

英雄。幼冲。遠足。

遠慮。延滞。要領。

縁談。宴會。繪具。

雨なく人間皆煩熱し苦し候就
ては明夜の月明し乗じ柳橋の
邊より一葉し掉し墨江に泛は
んぞ乃企に御座候足下し御
賛成し候はゞ夕刻御來會有之
度候也頓首

俗体

昨今者夜半まで蒸暑く誠し困
入候就ては明晩あたそ墨江へ
掉さし清凉界之夜遊相試度す

回向。演説。妖言。

營業。襟。撰。

奕世。衛生。鋭敏。

畫師。蝦。遠方。

枝。驛遞。豌豆。

〔てノ部〕

天子。天皇。天顔。

朝寧。亭主。叮嚀。

天下。典禮。徹夜。

典籍。適宜。傳染。

でし畫舫を約し候御同遊如何
し候や御報奉待候不備

(四十) 同意之復章

漢体

頃日暑毒惱人小窓無由避時忽
蒙納涼陪舟之命欣歡無極明日
期黄昏必以訪足下之家矣

雅俗折衷体

鬱熱蒸々煩悶に不堪之折節泛
舟避暑之御催し御同意勿論之

轉任。	定決。	定期。	手紙。	定員。	手代。	的當。	手桶。	手本。	點檢。	手數。	點瑕。	定價。	手拭。	涕淚。	手袋。	傳承。	抵當。	鐵砲。	電信。	傳播。	手鞠。	傳授。	顛末。	電報。	弟子。	丁寧。	丁壯。	鉄面皮。	鉄瓶。
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------	-----

事コト一ヒト候マツル明あきら夕ゆふの万ばん事ジを摺すりき御ご同どう
遊あそ可べ仕し候ま商しょう議ぎと拜はい面めん乃な時ときを期ま
を裁さい答とう

俗しやく体たい

如ごと仰うや連れん日にち之の暑しよ氣きにて凌しの兼かね候ま處ちよ
へ涼すず船ふね之の御ご誘ま引ひ幸さいひの御ご事じ一ヒト
御ご座ざ候ま明あ夕ゆふの早はやめ一ヒト尊そん宅たくまで
伺か候ま可べ仕し候ま先まの御ご返へん事じまで勿な
々々

(四十一) 避暑誘引之文

田地。	手習。	田畑。	出入。	出來。	寺。	敵。	適意。	手傳。	瀕瀕。	吊辭。	手形。	天井。	手附。	〔あノ部〕	行宮。	哀訴。	相手。	安堵。	相對。	安穩。	安寧。	阿片。	鞅掌。	哀憐。	難有。	惡習。
-----	-----	-----	-----	-----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

漢ま体たい

某その山やま之の飛ひ瀑ばく者は本ほん州しゆ絶ぜつ奇き之の勝しょう地ち
也や奇き崑こん後ご峙し絶ぜつ壁へき前まへ俯ふ其その中ちゆう央やう瀑ばく
布ふ懸か焉やん長なが各かく丈ちやう餘よ沫まつ飛ひ散さん漲ちやう空くう
而を降くだ實じつ可べ謂い避暑ひそみ之の一ヒト大だい佳か境けい願げん
與と足そく下か共とも一ヒト遊あそ而を以もつ避暑ひそみ鬱うつ蒸じやう之の憂うれ
伏ふし待まち復ふく書しよ

雅俗折衷体

灰はい一ヒト聞きく某そのの山さん間かん瀑ばく布ふありと
一ヒトたたび行ゆて之のを觀みんと欲ほす未いま

憐 <small>あはれ</small>	有様 <small>ありさま</small>	葵 <small>あひ</small>	壓倒 <small>あつぱう</small>	安産 <small>あんざん</small>	商人 <small>あきうど</small>	欠伸 <small>あぐひ</small>	雨 <small>あめ</small>	網 <small>あみ</small>
甘味 <small>あまみ</small>	浅間敷 <small>あさましく</small>	愛憎 <small>あいぞう</small>	愛惠 <small>あいけい</small>	誦誦 <small>あんしん</small>	安樂 <small>あんらく</small>	案内 <small>あんない</small>	雨具 <small>あまぐ</small>	痘痕 <small>あはた</small>
行燈 <small>あんどう</small>	朝夕 <small>あさゆふ</small>	荒物 <small>あらいもの</small>	薺花 <small>あまかば</small>	途 <small>あちよ</small>	安心 <small>あんしん</small>	殃災 <small>あやさい</small>	暖味 <small>あまい</small>	夥多 <small>あまた</small>

俗体

其之地之瀑布は山林幽静之勝地。候よし一日炎威を該地に避るの手段者如何に候や若御同意候はゞ御供可仕候再拜

(四十二) 避暑誘引之復文

だその機を得ず此暑中休暇に乘じ一遊を試んとす貴君如何に候や御同伴被下候者々辱奉存候御都合伺上度如此候頓首

慌 <small>あはて</small>	集 <small>あつまる</small>	豈 <small>あに</small>	跡 <small>あと</small>	綾 <small>あや</small>	過 <small>あやまち</small>	慢 <small>あやむろ</small>	惘 <small>あやれる</small>	拾 <small>あはせ</small>	扱 <small>あつか</small>
醴酒 <small>あはけ</small>	兄 <small>あに</small>	霰 <small>あられ</small>	剩 <small>あまつまへ</small>	誤 <small>あやまり</small>	垢 <small>あか</small>	改 <small>あらたむ</small>	嫂 <small>あによめ</small>	愆 <small>あやまる</small>	欺 <small>あざむく</small>
洗 <small>あらい</small>	預 <small>あづかる</small>	争 <small>あそぶ</small>	編 <small>あむ</small>	豫 <small>あらかじめ</small>	嘲 <small>あざけり</small>	飴 <small>あめ</small>	嵐 <small>あらし</small>	足 <small>あし</small>	飽 <small>あつく</small>

漢体

苦熱炎々難耐時未得避他所之苦。計僅恃扇頭之微風耳何料忽被導山石銷夏之地豈敢辭謝謹而諾焉

雅俗折衷体

酷熱凌ぎがたきの折柄銷夏之所も有之哉と存居候處幸ひ納涼之思召立にて御隨行の命を蒙り感謝の至に堪ず候魂夾

惡人。香魚。按摩。

曉。羹。姉。

油。爭。顯。

〔さノ部〕

參議。參內。左様。

參謀。才覺。差支。

參考。創業。祭典。

參酌。贊成。逆様。

採用。催促。罪狀。

盃。細君。棧敷。

詐欺。鎖國。財政。

再拜。裁縫。參上。

挫折。參堂。殘念。

再生。罪人。再舉。

早速。細工。再思。

散財。去迎。三復。

蒼天。散策。算段。

最中。蒼黃。祭禮。

沙汰。採用。蒼創。

草稿。左遷。再三。

復飛越謹て命之從はさらんや謹

俗体

炎威甚敷日々暑鋒を避るに地
かく實に困却之處活路へ御指
導の趣きいかんぞ御辭退や可
仕如何も御供可仕候拜答
(四十二) 温泉誘引之文

漢体

某温泉者在某州山谿而頗稱清

涼世界故欲誘二三之知己共洗
煩熱君倫同意來乎伏而待貴答

雅俗折衷体

乘此暑暇相州某温泉に遊んと
存心立同士兩三名談ひ置候稚
兄亦意あらば御同遊如何に候
や御都合伺上候也頓首

俗体

此夏休中相州某之温泉へ保養
の爲罷越度親友兩三名申合せ

散步。	作法。	作物。	詐術。	詐冒。	財布。	才智。	嗟嘆。	刷行。	差引。	更。	定。	月代。	左袒。	砂糖。	里。	妻子。	騷。	妨。	察。	妻。	流石。	吓。	櫻。	悟。	嗟怨。	曉。	嘸。	諭。	才能。
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	----	-----	-----	-----	----	-----	----	----	----	----	-----	----	----	----	-----	----	----	----	-----

聊か旅装等も用意致し候就て
 先生も兼て思召も候由御同
 伴如何に候や御伺申上候也再
 拜

(四十四) 全同行承知之文

漢体

蒙温泉陪遊之命僕遊情已動焉
 豈敢辭謝明旦翩翩而至矣

雅俗折衷体

如來諭昨今之炎熱凌ぎ難候間

幸 五月雨。

〔さ〕部

逆旅。	休日。	窮屈。	基礎。	休業。	許可。	騎兵。	氣之毒。	許多。	恭順。	極。	許容。	窮苦。	金圓。	杵。	氣質。	嫌。	麾下。	恐縮。	禁闕。	貴賤。	禁裡。	禁闕。	恐悅。
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------	-----	-----	----	-----	-----	-----	----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

避暑旁温泉行之思召立至極結
 搆に候小生も計畫致居候處に
 て實は好機は候へハ御陪從之
 事聊無異議候明日早々御立寄
 可中上候頓首

俗体

小生儀も己は温泉行の心組は
 て只今自是可申上候處却て御
 誘引はあづかり意思暗合最大
 機會と奉存候明朝支度次第御

疑猜。	匡救。	緊要。
謹慎。	議論。	期會。
距離。	義理。	雉子。
教師。	期程。	器量。
教員。	教訓。	歸化。
氣隨。	歸遣。	奇妙。
錦繡。	近邊。	膽。
歸向。	狂乱。	及第。
居留。	行儀。	議場。
議員。	既往。	去年。

門前はで可罷出候拜答
 (四十五) 招友賞夏月文

漢体

世賞月者春愛糶糊秋愛澄清雖
 然夏宵之涼月者固不讓二候也
 僕庭園雖小流水有焉綠樹有焉
 亦足以少粧夏月之涼景邀足下
 共幽賞今夕月延頭以俟矣

雅俗折衷体

今宵ハ涼風快ク月の風情も一

謹身。	急迫。	驚愕。
急遽。	歸省。	危懼。
氣樂。	巾着。	脚半。
跼蹐。	脚夫。	議事。
氣儘。	着物。	行列。
儀衛。	禁止。	詰問。
氣運。	歸期。	奇態。
吟味。	鏡臺。	奇計。
狂人。	規則。	狂歌。
仰天。	基本。	魚類。

入と存じ候得者弊樓に於て一
 酌相催度候何卒万障御差繰御
 來會あらんと祈る謹而命を
 待つ百拜

俗体

月の詠ハ春秋と申候得共夏宵
 乃涼天も亦格別に候弊園の修
 理昨今落成致し遣水の景色を
 と聊か意を用ひ候積を御笑覽
 の爲夕刻より御來駕奉待上候

歸宅。祈禱。許容。	嚴敷。絹。舊來。	金魚。際。貴兄。	菊。奇特。窮迫。	給金。居宅。居所。	聞及。救助。謹言。	聞濟。窮理。聞屈。	逆徒。金満家。近鄰。	歸國。禁物。金銀。	仰山。禁酒。希望。
-----------	----------	----------	----------	-----------	-----------	-----------	------------	-----------	-----------

再拜

(四十六) 全謝答

漢体

一雨送涼暮天忽霽新月一團大
 快人意高園之風趣更添一段之
 奇忽承召未敢辭也即刻趨命
 雅俗折衷体
 今宵ハ夕立の余波涼いさ新月
 よ月の景色も並々あらず候承
 り候へば名園の修理功を奏し

御慶。	乞巧。氣候。煙管。	規則。競争。御意。	義務。魚油。九泉。	謹慎。急用。兄弟。	休神。近來。牛馬。	氣晴。休意。器械。	氣長。磨至。許可。	休暇。綺羅。屹度。	忌憚。許多。奇麗。
-----	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------

俗体

風趣大い昔日に倍すと風趣一
 段とよろいかるべく候幸ひ御
 盛寵を辱す即刻拜聞高園の夜
 色を拜觀し并て以て夏月を賞
 せん先と御請のみ余ハ後刻拜
 謁の時に譲り申候百拜
 碧天如水と詩にも詠じ候通殊
 更月の涼氣ある御庭乃風情定
 めし御風流の御事と御羨敷候

〔ゆノ部〕

雄飛。	由來。	愉快。
輸出。	輸入。	雄傑。
緩々。	雄辨。	遊歩。
諛佞。	浴衣。	夕立。
夕涼。	夕刻。	勇退。
遊惰。	行届。	諭言。
油斷。	雪。	床敷。
往來。	遊山。	由緒。
踰越。	行違。	踰月。

折柄御招まあづかり欣喜この此事
 み御坐候即刻拜問飽まで高庭
 乃月を可賞候拜復
 (四十七) 夏夕對酌を友ともみ商る文

漢体

晚來一雨少女垂たれ惠稍得蘇復偶
 有人贈弟以酒一陶願與兄共之
 請足下來舉一觴

雅俗折衷体

日中は中々に凌しのぎ難がたき炎熱はんねつも

行末。猶豫。夢。

讓受。讓渡。融通。

〔めノ部〕

明君。盟約。目出度。

明斷。目覺敷。酩酊。

目利。名刺。目印。

名望。迷惑。目當。

面倒。名族。免職。

面會。面前。面謁。

鳴謝。冥途。明瞭。

候へと夕方かたの大おほいに快こころよく候殊更
 今宵の新しん月げつの一層いっしやう快こころよ爽さわに候ハ
 んよつて弊樓へいろうに於おて對酌たいしやく致度
 聊いささの遠來えんらいの好下物かうかぶつも有之候御
 閑暇かんかに候ハ是非せひ々々御來車
 被下度奉待上候拜具

俗体

午蒸ひるむの甚敷はなはだも晩景ばんけいよ到いたり少すこし
 凌しのぎよ相成候弊家南なん擔たんハ風かぜの
 入いるよろしを候間手製てせいの野肴のや肴

馬腦。珍。眩暈。	鐵。娶。珍敷。	名代。瞑目。目見。	銘骨。名産。惠。	名所。巡回。命令。	召抱。莫大小。盲。	滅却。名物。螟蛉。	名譽。酪酒。冥加。	面調。免黜。冥罰。	面縛。面談。面晤。
----------	---------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------

にて一蓋相献じ度勿論坐に無
 他客候間何卒賁臨奉待候不備
 (四十八) 全答書
 漢体
 晚風如水不假扇兒已洗除煩熱
 寔人間復生時忽承兄堂之寵召
 荷愛良深謝莫能罄劣弟敢辭酪
 酌哉
 雅俗折衷体
 黄昏日没お上及び候得者余程涼

身内。密勅。味方。	懸察。身分。身拵。	店。未熟。未練。	民庶。密談。見舞。	見苦敷。密柑。短。	皆々。見事。民情。	帝王。陵。民葬。	〔みノ部〕	名利。	惠。綿々。面目。
-----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	----------	-------	-----	----------

氣を相催志候折柄御晩酌の御
 相手に召寄せられ候段欣意不
 斜候實は今夕あさり奉問之
 心籌よも候故早速罷出御馳走
 頂戴可仕候拜復
 俗体
 如仰夕方お上到お上少し苦熱を
 忘れ候折節御親切の御招請よ
 預り難有奉存候對酌の余興久
 々よて分韻即賦之樂ハ如何よ

見合。民有。密封。

味淋。見送。泯滅。

密通。滌。見届。

途伴。見習。砌。

未來。見答。民情。

道筋。汀。民權。

味噌。孤。磨。

〔しノ部〕

周歲。祝辭。親友。

親睦。冗官。親疎。

御坐候や先は御請まで拜復

(四十九) 花火見物誘引之文

漢体

聞舉烟火戲干二州河上將與二三之友生議而棹一葉同往觀之先生我黨之領袖故先走賤价以告之伏望降臨不宣

雅俗折衷体

今晚者於兩國邊烟火戲相初候由四五輩申合一畫舫を買ひ絃

親族。親類。親狎。

守護。辭職。宸意。

昇進。身躰。出羣。

思案。情實。出格。

仔細。心願。信地。

嗣子。信仰。承服。

辛苦。事實。事情。

自儘。死骸。自然。

親切。主宰。進呈。

使令。證書。師走。

妓兩三名次聘し見物旁々納涼

の所存は候先生若意あらは僕

輩が將として船路之方向を定

められんとを不宣

俗体

例年の通本宵は兩國邊に於て花火相催し候由豚兒共は被勸見物の心組にて已に一小舟命を置候若御閑暇に候とゞ御惣容様御同道にて御同船被下候

師匠	將基	四肢	失望	熟談	所望	自在	自由	診察	至極	出世	斟酌	稱歎	質物	時雨	品物	襦袢	儒者	出訴	修繕	司法	新聞	進退	仁義	從容	種痘	笑止	商用	賑恤	寫真
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

様奉_ニ希_ニ上_ニ候御都合如何に候や
 伺上申候拜具
 (五十)全還章

漢体

僕亦聽有烟火之事然而今幸蒙
 兄台之誘引豈欣然而不從哉

雅俗折衷体

本宵兩國に於て烟火有之候よ
 付兄等泛舟の盛舉如何にも愉
 快乃事と想像致し候弟驚下と

傲	心勞	時勢	吝嗇	商賣	暫	試驗	獎勵	思案	辛抱	調子	時宜	自今	障子	思想	事件	衆議	庶人	宿志	時節	執心	失念	失禮	趣向	尋常	書籍	書物	荏苒	自慢	趣意
---	----	----	----	----	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

雖も豈一興を添ざらん哉謹而
 復す

俗体

花火見よ御誘引被下難有奉存
 候小生方も御同情よて聊用意
 も仕候間何卒共併御同遊奉希
 上候猶商議は後刻参上の上万
 縷可申述候拜答
 (五十一)贈夏菊文

漢体

診斷。	實際。	賞與。
職業。	祝儀。	事實。
信心。	始末。	事情。
出發。	昇級。	昇等。
主張。	辭令。	昇降。
主意。	進上。	使節。
習慣。	仕合。	芝居。
入魂。	四近。	承知。
使酒。	承諾。	四海。
仕事。	仕込。	正直。

後園麥秋之菊近日已着花唯恨
 欠神韻雖然折一枝以呈兄机前
 雅俗折衷体
 迂生率意一植置候夏菊中々見
 事に開初候一付秋菊の佳致ハ
 無之候へ共倦書之御詠にも相
 成候ハゞ大慶の至一候不悉
 俗体
 老父培養之夏菊開初候間詠ハ
 薄く候へ共兩三枝奉入御覽候

失策。	縱覽。	加之。
失却。	失當。	身代限。
縱令。	至急。	將來。
詳論。	心配。	準備。
時運。	時機。	屢。
集會。	自到。	實意。
自負。	商量。	新發明。
宿弊。	仕着。	執筆。
斟酌。	失念。	資用。
振張。	使用。	處分。

頓首
 (五十二) 全謝復
 漢体
 蒙惠夏菊數朶枝々凝粧宛然欺
 秋乃挿小瓶時々見以慰鄙懷矣
 謹謝
 雅俗折衷体
 御老父様御培育之夏菊御分與
 一預り妖艶實一目を驚一申候
 實に深秋よも優り候風姿そ乃

宿所。私論。盡力。	質樸。出張。質問。	武。取捨。姑。	勇。周旋。賞讃。	素人。叱咤。摺。	慕。奢侈。嫉妬。	思願。白髮。櫛比。	忍。深慮。秀才。	資本。首尾。
-----------	-----------	---------	----------	----------	----------	-----------	----------	--------

儘花瓶に挿み候處机上自ら清涼を覺へ候御老父様へよろしく御禮奉願候先は御禮まで如此に御坐候拜復

俗体

嚴大君御手植の夏菊御投與被下艷色の非常ある直に机上に儲へ可_レ供_二清賞候_一謹復

(五十三) 贈牡丹文

漢体

〔ハノ部〕

敏捷。比隣。獨。	裨益。評議。鄙俚。	擯斥。評判。逼迫。	鄙薄。比較。非道。	微志。誹謗。被告。	微俸。表紙。日蔭。	彼岸。貧賤。疲弊。	日暮。飛脚。非職。	非役。匕首。筆記。
----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------

破園花王漸開葩謹以一本奉獻
幸獲之百寶欄一時供清玩

雅俗折衷体

此牡丹は去年さる藁駄より培養の口授を受け候處當年は思ひ乃外に大輪に相成候則ち自替仕供_二尊覽候_一御一笑可被下候拜具

俗体

過日御約束申上置候牡丹漸く

一際。	披見。	引合。
屏風。	最負。	罷免。
暇。	一入。	隙。
只管。	緋縮緬。	卑怯。
誹謗。	永結。	品行。
謬誤。	病氣。	飛檄。
秘藏。	披露。	非常。
惘然。	瓢箪。	庶。
非薄。	表具。	鄙吝。
漂泊。	日柄。	單物衣。

及破蕾候間數本を根分致し爲
持さし上候御庭に移され御詠
め被下候は幸甚

(五十四) 全謝文

漢体

蒙惠國色天香眞花中之富貴也
植之小圃用照遺愛多謝々々

雅俗折衷体

御丹精にて十分艶麗に開初候
牡丹花御根分被下難有奉存候

久敷。	貧乏。	日向。
卑屈。		

〔もノ部〕

毛錐。	問答。	目的。
最。	目錄。	尤。
門閥。	若。	默々。
儲。	問題。	求。
摸擬。	催。	貫。
戻。	隙廬。	摸造。
漏。	勿論。	素。

破園に候へ共頂戴之花により
聊か詠毛可増候先は御禮まで
頓首

俗体

御園生の牡丹花御投與被下難
有奉存候自是して荒庭毛聊か
光輝を生ぜべく候不取敢御禮
まで拜復

(五十五) 初秋友人に遺す文

漢体

毛髮。	餅。	摸範。
摸樣。	沐浴。	專。
摸寫。	弄。	紅葉。
門弟。	默止。	最早。
股引。		
〔せノ部〕		
聖世。	聖德。	詔勅。
聖代。	聖人。	整頓。
洗濯。	踐祚。	踐行。
政治。	性質。	世界。

少女送涼秋色已來足下近狀如何
 何遲慢之罪無所逃海容是仰茲
 裁短簡候間

雅俗折衷体

昨夕之雨故乎今朝ハ余程涼敷
 秋之景色と相成候折柄久敷音
 扣を絶ち罪條遁るべからず候
 失禮ながら紙面を以て御左右
 奉伺候也

俗体

先鋒。	節季。	撰擧。
誠實。	折角。	餞別。
說教。	專任。	西洋。
戰爭。	戰場。	成否。
接待。	煎茶。	潛居。
洗湯。	凄然。	成長。
折衷。	世話。	折閱。
生徒。	拙者。	盛衰。
青天。	施主。	制禁。
先刻。	赤面。	井蛙。

未だ初秋の候へ共朝昏ハ余
 程涼敷相成候如何御渡候也
 余り御無音と相成候故畧儀あ
 がら紙面を以て御左右奉伺候
 也

(五十六) 初秋答友入書

漢体

風入梧桐早涼忽來將修短簡問
 動止如何忽蒙賜玉翰惶懼無地
 置身將以明日拜問華第有所謝

借越。誠忠。星霜。	精神。世帯。先日。	税金。竊盜。節義。	線香。追。清潔。	全脉。生擒。贅言。	煎藥。善惡。生民。	先生。節儉。生業。	先祖。旌旗。是非。	痴氣。贅澤。旌表。	成功。整頓。製造。
-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------

矣委曲在面陳不罄

雅俗折衷体

如尊命昨夜の一雨より一層秋
 氣相變候然私方より御機
 嫌伺毛可仕之處却て預御尋千
 萬奉謝候近日參上の上怠慢之
 罪申開くべく候敬復

俗体

如尊命所夕者凌克相成候借ハ
 自是こそ奉問可仕之處却て御

隨行。水旱。煤掃。	隨分。垂憐。寸志。	趨拜。推察。頭巾。	樞機。推究。住居。	綏服。樞要。推舉。	樞密。衰微。推參。	〔子ノ部〕	攻。煽動。詮議。	說諭。芹。悻。	征伐。穿索。征討。
-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-------	----------	---------	-----------

尋問あづかり奉恐入候何
 不日拜顔の上万縷可申述候先
 ハ御挨拶迄早々

(五十七) 祭禮招人ノ文

漢体

零日者則惶廟之例祭也樂輿舞
 棚各競新奇士女雜沓絡繹如織
 實地方之盛觀也僕亦供野肴與
 村醪以俟足下之來臨

雅俗折衷体

拮据	水仙	遂志
摺鉢	停車場	酢
隨意	江	推量
炭	西瓜	總
雁	錫	墨
雙六	濟	酢
相撲	吸物	
◎人皇御歴代		
神武	綏靖	安寧
懿德	孝昭	孝安

本月某日者本地惶廟式有之候
 素より邊鄙故一向之事に候へ
 共御一統様御聯袖よて前宵よ
 り御枉駕被成下度奉待上候頓
 首

俗体

來幾日本地鎮守祭禮に付爲差
 事は無御坐候得共御深窓并に
 御令子方御來臨被下候様奉待
 上候拜具

孝靈	孝元	開化
崇神	垂仁	景行
成務	仲哀	應仁
仁徳	履仲	反正
允恭	安康	雄略
清寧	顯宗	仁賢
武烈	繼體	安閑
宣化	欽明	敏達
用明	崇峻	推古
舒明	皇極	皇徳

(五十八) 同復謝

漢体

因有仙郷某神賽會之事辱學家
 老少之佳招僕傳芳命也皆欣々
 然以俟其期僕亦感謝何極哉

雅俗折衷体

芳墨拜誦恒例之御神事例年に
 倍して賑ひ候由態々家族共を
 御招被下辱次第に奉存候仰せ
 一從ひ卑族一羣參上爲致候何

齊明。	天智。	弘文。
天武。	持統。	文武。
元明。	元正。	聖武。
孝謙。	淳仁。	稱徳。
孝仁。	桓武。	平城。
嵯峨。	淳和。	仁明。
文徳。	清和。	陽成。
光孝。	宇多。	醍醐。
朱雀。	村上。	冷泉。
圓融。	花山。	一條。

卒御客様の御手傳等も無御遠慮御使役可被下候謹復

俗体

御地方御祭典により家族一同御招き下被御信切の程難有奉存候豚兒共と御當日を僕指致樂居候何卒御配慮なく奉願上候謹復

(五十九) 邀人賞蓮花文

漢体

小池蓮花已開清香襲人眞花中君子也弊屋素莫盛饌之供雖然敢請長者之枉轅乘晚涼蒙惠臨實望外之喜也

雅俗折衷体

兼て中上置候小池之荷花放香致候も付荒蕪の小園も聊か景色候就ては別段御款待も無御座候得共明日午後より御涼旁御來觀奉待候不備

三條。	後一條。	後朱雀。
後冷泉。	後三條。	白河。
堀河。	鳥羽。	崇徳。
近衛。	後白河。	二條。
六條。	高倉。	安徳。
後鳥羽。	土御門。	順徳。
仲恭。	後堀河。	四條。
後嵯峨。	後深草。	龜山。
宇多。	伏見。	後伏見。
後二條。	花園。	後醍醐。

後村上。後龜山。光嚴。

光明。崇光。後光嚴。

後圓融。後小松。稱光。

後花園。後土御門。後相原。

後奈良。正親町。後陽成。

後水尾。明正。後光明。

御西院。靈元。東山。

中御門。櫻町。桃園。

後櫻町。後桃園。光格。

仁孝。孝明。今上。

俗体

先日御咄申上候拙宅泉水之蓮
花盛に相成候就ては別段御款
待は無御座候へ共明日午後よ
り御涼旁御來觀奉待候頓首

(六十) 仝復書

漢体

盛圃荷花想若解語向人蒙雅招
芳志良深謝莫能罄放棄万事必
拜趨矣謹復

◎畿内八道

畿内。東海道。東山道。

北陸道。北海道。山陰道。

山陽道。南海道。西海道。

琉球。

◎府縣道廳

東京。京都。大坂。

神奈川。兵庫。長崎。

新潟。埼玉。千葉。

茨城。群馬。栃木。

雅俗折衷体

御泉水之蓮花盛の由にて御招
待にあづり万謝辭に盡しが
たく候仰に任せ推參可仕候拜
答

俗体

御池之蓮花満開より御請待
被難有奉存候任仰時刻より昇
邸一賞可仕候拜具
(六十一) 七種遊覽誘引之文

福島。宮城。岩手。	青森。秋田。山形。	富山。石川。福井。	長野。岐阜。滋賀。	静岡。山梨。愛知。	三重。奈良。和歌山。	鳥取。島根。岡山。	廣島。山口。徳島。	愛媛。高知。福岡。	佐賀。大分。熊本。
-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	------------	-----------	-----------	-----------	-----------

漢 体

草花之觀者都下以某園爲第一也聞時正盛開矣足下若同行而晒胸中錦繡千秋郊豈不快哉謹待命焉

雅俗折衷体

昨今某地ハ露ヲ開シ草花も一層風情候由君も御間暇に候はゞ一日御同遊仕度定て珍敷御近作も可有之と奉察候御都

宮崎。鹿兒島。沖繩。	北海道廳。	東京。京都。大坂。	◎三府	◎五港	横濱。神戸。長崎。	函館。新潟。	◎都會三府五港を除く	名古屋。金澤。仙臺。	廣島。和歌山。徳島。
------------	-------	-----------	-----	-----	-----------	--------	------------	------------	------------

合如何い候かや御報奉待候不悉しら

俗 体

墨陀某園は目下七草盛のよいさる友人より承り候御用閑かん候はゞ一日御供仕度且久々にて金玉も拜見仕度奉存候御同行如何い候や御報奉待候

(六十二) 同返簡

漢 体

朶雲誦讀僕亦將曳笻墨堤以弄ろうせん

熊本。鹿兒島。静岡。

富山。松江。岡山。

堀。札幌。小樽。

根室。福原。博多。

赤馬關。高知。米澤。

◎三景

松島。天橋立。嚴島。

◎大河

石狩川。利根川。北上川。

信濃川。天龍川。大井川。

秋色忽蒙寵誘豈不欣然哉僕雖
不似欲敢賦一絕以瀆清視謹復

雅俗折衷體

清風露を拂ひ野草花を生ず正
是吟人感觸之候也忽ち御寵
誘に會し意興勃然之至候御
教刻屹度御供可仕候拜答

俗體

七種御遊玩に付御誘引被下如
何にも御供可仕候幸ひ該園之

逢隈川。最上川。筑後川。

吉野川。神通川。隅田川。

能代川。岩木川。淀川。

郷川。天鹽川。木曾川。

富士川。阿賀川。十勝川。

岩見川。雄物川。由良川。

紀川。釧路川。射水川。

◎高山

富士山。御嶽。白山。

鳥海山。日光山。立山。

主人某ハ迂生一面識にも候間
旁都合よろしく候御返事まで
如此に御座候

(六十四)月見宴會之文

漢體

時維中秋萬里晴光如灑值此良
夜不宜以冷眼對嫦娥聊設草酌
欲開詩歌之雅會桂觴扳駕君請
勿辭焉

雅俗折衷體

淺間山。大山。伊吹山。
 筑波山。恐山。月山。
 羽黒山。栗駒山。刈田岳。
 霧島岳。阿蘇岳。那須山。
 唐淵山。秋葉山。那智山。
 後方羊踏山。天城山。
 ◎噴火山
 淺間山。大島。阿蘇山。
 那須山。霧島岳。三宅島。
 硫黄岳。温泉岳。妙高岳。

恰も本日は舊曆之中秋にて殊
 一、點之翳もなま實に稀ある
 良夜は候就ては某樓は近頃之
 新築にて頗る清潔且望月は
 究竟之場所故該樓に於て小宴
 可相催存お己よ二三之知己よ
 兼約致置候盛饌の用意はな
 く候得共御來會下被候ハ、太
 慶不過之候御都合如何に候や
 伺上候頓首

◎名勝三景ヲ除ク

日光山。嵐山。舞子濱。
 象潟。耶馬溪。鳴門。
 吉野山。和歌浦。田子浦。
 錦帯橋。鈴鹿山。勿來關。
 末松山。金華山。琵琶湖。
 三保松原。墨田川。
 ◎温泉
 熱海湯。函根湯。草津湯。
 川府湯。有馬湯。伊香保。

俗体

今夕ハ舊之十五夜に相當少
 の曇もなま候間親友共打集ひ
 賞月の小集相催すべと商議
 仕候幸ひ到來之薄酒も候ま、
 御差繰御來臨の程奉待候拜具
 (六十五) 觀月集會復簡

漢体

月色玲瓏光滿天涯此夕足下與
 芝蘭共開宴某樓焉風流可想而

青根湯。飯坂湯。鳴子湯。

箕川湯。道後湯。湯原湯。

◎湖水

琵琶湖。霞ヶ浦。印幡沼。

諏訪湖。安道湖。八郎瀨。

遠洲湖。中禪寺。猪苗代。

品井沼。蘆ノ湖。

◎瀑布

那智瀧。華嚴瀧。霧降瀧。

裏見瀧。布引瀧。養老瀧。

寵招不棄僕榮幸々々當不誤期
而赴盛筵唯耻無蘇翁之妙致足
下幸導我焉

雅俗折衷体

例年の如く觀月樓に於て御盛
醺之趣被仰越承知仕候不才な
る小弟をもいつも御見捨かく
席末に侍らしめられ厚情深切
感荷殊甚く因て煩擾之事務を
擱き直に拜趨すべし謹復

◎記事之部

○水車

精出せば凍る間のかし水
車といふ句あり人も怠り
さく勉め油斷さく働かば
貧乏遍るの患あり

○風車

風車風のまよく廻るお
りといふ唱歌の誰も常よ
謠ふお風のみまよまよと
風の吹くに隨ひて風の
思ふやうまよといふ意味あり

俗体

觀月雅會御催によそ私共迄
御招の段忝奉存候后刻參上陪
席可仕候余の御面晤乃時は讓
り申候拜答

(六十六)贈果品之文

漢体

弊郷某果者名高于江湖昨自彼
寄一筐一味適于口謹奉數個請試
之亦聊足潤喉吻

りと母も教へられたり

○小錦

近頃の相撲仲間も名高き小錦の其体重三十貫余ありといふ普通人体の重さのおよそ十二三貫目より十四五貫まであり小錦の大兵思ひはかるべし

○パノラマ

昨日浅草へ行きて「ばのらま」を観たり書り宇治川又佐々木高綱梶原景季

雅俗折衷体

弊里ハ某果乃名産一候處當年ハ格別精熟の趣にて送り吳候間少分おがら入御覽候貴口一上るや否やを知らず叱留是祈申候拜具

俗体

這果は拙家庭園中にて成熟いたし候間少々は候へ共令息方へ御慰の爲進上仕候頓首

(六十七) 果品所贈復書

漢体

辱賜菓品一拜受先嘗味旨恰如合蜜令人咀嚼無窮謹謝在會晤

雅俗折衷体

佳果御寵投忝存候直に賞喫致候處風味非凡恐く人間中之物に非らず候兒輩之歡喜一方おらず御推察可被下候謹で渥愛を謝す

の二人が先がけの高名を爲さんとする所其外日本の歴史もある事柄数多あり昔戦場の光景を寫し其精巧あると恰も活たる人物の如し見物するものみお其身戦争の場所も在るかど疑へり

○幻燈

昨夜我通學する學校にて幻燈を寫すを見たり二人の少年一人は品行悪くし

て成人の後遂に懲役とあり一人の學業を厲みて後ち立身出世するまでの有様を寫す善惡の報ひ明かあると此の如きかど自ら大に戒むる心起れり

○清盛

平清盛の淨海入道といふ此人威權を擅し朝廷を蔑し我意次第に増長したるを以て平家一門の滅亡を招けり

俗体

御投惠之果直様嘗一顆候處甘美之味ひ誠に稀代に奉存候豚兒共共舞欣躍の容子御想像可被下候一同よりもよろしく御禮申上候百拜

禮申上候百拜

(六十八) 招人賞菊之文

漢体

秋圃瀟條晚花獨秀香色奇艷殊可自負也當此時欲與足下把杯

○頼朝

源頼朝の才略人々勝れたる人おれども猜み疑ふ心を持ち居たれば梶原の讒言を信と思ひ頼朝義経等の兄弟を惡み遂に跡絶るに至れり

○小學校

金剛石も磨かずの玉の光のそらざらんとし皇后陛下御製の御歌よて人の學問するの癖を以て玉

相共賞觀焉請足下來舉一觴

雅俗折衷体

拙園極て蕪穢と雖も昨今菊花之盛時により滿地錦繡之富を占有致し候へは弊廬に於て小宴相催し度候若し御閑暇に候はゞ御來遊被下度奉願候頓首

俗体

拙老手培之菊花眞盛に相成候されば獨詠めんも無本意存じ

を磨くが如し小學校の我が爲の礎石あるか
○少年書類

近頃少年書類として我々小學生徒が讀んで益ある書籍を出版すること甚だ多くかれり我々少年の幸福以前増したり

○小國民
小國民とい誰の事ぞ即ち我々小學生徒をいふあり我々少年のやがて成人す

れバ今の大人の跡を繼いで第二代の國民とあるあり故に今我々少年をさして小國民といふ小國民の名たのもしきか
○教育勅語

我が奉戴する天皇陛下の我々の爲に忝くも教育に係る勅語を下し賜りたり今謹んで其全文を書寫し朝夕捧讀せん
朕惟ふ我が皇祖皇宗國

候に付貴君之御來觀を請ひんと欲すこゝに謹て寸楮を呈し以て候尊意之肯否再拜
(六十九) 賞菊所邀謝文

漢体

高園菊花含露帶霜燁々正盛然而今蒙許縱覽故捐棄俗冗即往以可應酒試耳至吟詠之任固僕所不堪敢謝焉敢謝焉
雅俗折衷体

盛圃之菊花芳香を放ち金光を故に只今眞盛に候由態々御招き候豈敢て雅招を負んや拜答

俗体

御庭之菊花盛に付被許縱覽候之趣幸甚無此上候不期他日今午後參赴し及ぶべく候拜復
(七十) 菊圃遊覽誘引之文
漢体

を肇むること宏遠な徳を樹ること深厚あり我が臣民克く忠く孝く孝く億兆心を一として世々厥の美を濟せるにこれ我が國體の精華にして教育の淵源も亦實に此に存す爾臣民父母を孝く兄弟を友を夫婦相和し朋友相信じ恭儉己れを持し博愛衆に及ぼし學を修め業を習ひ以て智能を啓發し徳器を成就

某地黄菊不遲不速已屬爛熳而節已向霜氣恐難久保也於是僕亦將學陶令之遺風足下與僕輩乎伏候_二尊慮_一

雅俗折衷体

僕が友人近年近村に退隱致し秋菊數多作り候處時正に眞盛の由近く同志を誘ひ合せ遊覽之意籌し候雅兄も御間隙に候はゞ御同行願上度候御都合如

何に候や伺上候頓首

俗体

近郊住居之一友人菊圃相開候處昨今盛のよゑよて一日來觀可致旨昨日申來候就ての契兄御清閑に候はゞ御同行相願度此段奉伺候也

(七十一) 全同行承知之文

漢体

僕亦嘗聽該地菊花之盛然未經

し進んで公益を廣め世務を開き常に國意を重じ國法に遵ひ一旦緩急あれば義勇公を奉じ以て天壤無窮の皇運を扶翼すべし是の如きに獨り朕が忠良の臣民たるのみならず又以て爾祖先の遺風を顯彰するに足らん
斯の道の實に我が皇祖皇宗の遺訓にして子孫庶民の俱に遵守すべき所之を

古今又通じて謬らざる之を
中外又施して悖らず朕爾
臣民と俱に傘々服膺して
咸其徳を一又せんを庶
幾ふ

明治廿三年十月卅日

御名 御璽

○數學

數學の和算と筆算の二法
あり何れも人間に必要の
ものとして数理を能く辨
へたるものゝ智者として

一遊覽也今忽蒙賜誘引之書宜
棄却塵冗以試一遊矣謹復

雅俗折衷体

近郊御住居之御朋友御手培之
菊花盛小付御隨從を命せられ
誠は好機會欣喜に堪え候近頃
小生方へ逗留之一詩客御坐候
間携帶可罷出候余ハ後刻御面
晤に讓る

俗体

これ又暗きものは愚昧
あり野蠻の民の物の數を
知らず文明の民の数理は
精しきを以て知るべし

○寫眞

我叔父の遠國より未
だ逢ひ見たることなし昨
日郵便又托して寫眞を贈
り來れるより始めて其
の容貌を見ることを得た
りこれ寫眞の功あり
○秦始皇

御親友這回菊圃御開し付御誘
引被下難有奉存候明日あより
御不都合も無御坐候ハ御供
仕度候拜答

(七十二) 贈菊花文

漢体

弊園之黃菊初開茲折取數枝以
供雅兄之清玩

雅俗折衷体

庭前之菊開候間兩三枝入御覽

秦始皇の支那國古今英雄
中の魁からん彼の萬里の
長城を築きたるが如き大
業の此の帝よあらざれば
爲し難かるべし惜いかあ
仁徳なきが故よ二世を保
たずして滅びたり

○ウエリントン
英國の名將ウエリントン
の無比の大英雄拿破崙と
屢戦ひて功を顯せり
此入忠義の心厚く愛國の

候拜具

俗体

手前後圖乃秋菊
一枝机上に差上申候
(七十三) 菊花所贈謝文

漢体

高園之名菊香色非凡蒙賜一枝
生僕塵机之光輝
雅俗折衷体
黄菊爛熳愛すべきもの數朶を

念深く君子よして其心術
拿破崙と同一論すべか
らず

○牡丹花

今朝叔母の許より牡丹花
數枝を贈らる花大にし
て頗る見事あり瓶に入れ
て床に置く來り觀るもの
歎賞せざるべし此れ其
培養よ力を用ひたれば亦
り人の學業よ於ける亦之
も等し

俗体

賜はる秋色冷艶忽ち机邊に生
せん多謝々々
見事乃菊花御贈り被下難有仕
合よ御坐候先は不取敢御禮を
で拜答

漢体

(七十四) 看楓誘引之文
傳聞某山之楓葉已帶丹色殆如
布錦繡然而欲縱覽郊外之勝景

○犬

我家久しく飼ひ置ける
洋犬病を發して昨日死し
たり彼れハ平常能く夜を
守り極て温和あるものか
りしを以て哀憐の情頻り
又起り爲る棺を作りて其
屍を藏め厚く之を我菩提
寺に葬らしめたり

○うた

歌ハ我國固有のものにて
三十一字をもつて綴る故

試詩腸也足下若有間與小弟之
所企乎

雅俗折衷体

某地は錦霞萬樹に亂れ十分之
好景此時を申す事ハ候先生此
程御間隙の趣に承り候間態々
賤价を以て御誘稟進候百拜

俗体

承れば此頃ハ山々の楓樹色付
候よし一日御陪遊相願ひ醉中

又三十一文字といふ其つ
りりかたハ五字七字五字
七字七字の五句にて成る
左のごとし

あまつかせ くものか
よひぢ ふきとぢよ
をどめのすがた ちば

しどめめん

始の三句を上句といひ
後の二句を下句といふ

○詩

詩ハ支那のうたにて我國

紅葉即賦之一興も候と一と
ハ愉快と奉存候御都合よろ
しく候はゞ御同遊致度候先と
右伺迄如此に御坐候頓首
(七十五) 全同意之文

漢体

秋色已老丹楓殊盛方此際僕亦
有野外散步之意焉豈圖兄被着
先鞭欲使僕附驥尾僕豈得不從
命哉謹復

よてのこれを「からうた」

とくふ詩より五言絶句

七言律あとの區別あり

去國三巴遠

登樓萬里春

傷心江上客

不是故鄉人

の五言絶句あり

霜滿軍營秋風清

數行過雁月三行

越山併得能州景

遥莫家鄉憶遠征

雅俗折衷体

如尊命該地の楓葉艶麗乃事は
僕も豫て傳聞仕り近日賞遊を
試と度思立居候處へ恰も好し
御誘書到來抃舞這緯に候御示
教の時刻必ず參上可仕候拜復

俗体

看楓之御誘書拜見仕候當面の
俗事候共賞遊にもれ候ては風
流社會に恥辱候間明日午後

の七言詩あり

○發句

發句の十七字あり此道又

名高き宗匠の芭蕉翁其角

等を推す

芭蕉

ものさへ唇寒し

秋の風

其角

夕立や田を見廻りの

神あらば

○人体

を期と必ず御供可仕候

(七十六) 贈人紅葉之文

漢体

昨過某山路紅葉萬樹燦爛可愛
僕賞玩不能去焉遂折數枝而歸
今謹以供先生雅賞伏乞爲玉詠
之資

雅俗折衷体

僕本日俗事を以て某地を過ぐ
某の地は素より看楓之勝地

人體の筋骨血肉皮膚にて
成る全身を養ふものハ血
液あり血液ハ食物より成
る食物悪しければ身体衰
弱し食物良ければ身体強
健とある

○湖

我國にて湖水の大なるも
の數多あれども中又就て
近江の琵琶湖最も名高し
世に聞ゆる近江八景の支
那の瀟湘の八景又倣ひた

非らずと雖も霜楓粧色眞に二
月の花よりも紅なり則ち數朶
を折り取り持歸り候まゝ少
は御慰みの端も可相成やと
存じ進上致し候白拜

俗体

今日某の地の楓林を不斗過り
候處聞し増る勝地に候就て
は折來候一兩枝を恭く机下に
供し該地之一斑を御覽し入れ

候也

(七十七) 紅葉所贈謝文

漢体

蒙賜錦霞燦爛之一枝蓄之瓶中
置之机上四硯秃筆亦少生光兄
之惠愛豈易謝哉多謝々々

雅俗折衷体

某の地御通行にて御家産の楓
枝頂戴被仰付難有奉存候今に
はじめぬ御風流之御賜後刻參

るものにして即ち唐崎の
夜雨、三井の晚鐘、勢田の
夕照、粟津の晴嵐、比良の
暮雪、石山の秋月、堅田の
落鴈、矢橋の歸帆、是あり
○杜鵑
予昨日人又誘へれて青葉
の山又遊ぶ歸路日暮れ月
を踐む偶杜鵑の一聲高
く叫ぶを聞きたり家又歸
りて其聲尙耳底にあり
○實朝の歌

鎌倉三代將軍の歌よ

武士の矢きみつくらふ
籠手の上は霞たべしる
奈須の玄の原

といふがあり定家卿の此
歌を評して鬼神をとりひ
しく體ありと言ひしとぞ
誠は勇壯ある歌あらずや

○伊勢太廟

神の中よて最も尊むべく
崇むべきの伊勢の國五十
鈴川は鎮坐をします天照

皇太神よて我國の臣民た

るもの朝夕は拜禮せざ
るべからざる大御神よづ
める

○將門

相馬内裏を築づきたる平
將門の其身は應ぜぬ望み
を起し朝廷は弓を引きて
遂は秀郷等の爲は滅ぼさ
る反逆の報ひ速かあらず
や

○道話

堂可及面謝候拜答

俗体

某地より御持歸のよにて御
分送被下御惠愛の不淺此楓葉
に比すべきか不日參堂の上万
謝可申述候謹復

(七十八) 聞蟲誘引之文

漢体

秋氣稍深頗覺爽然方此時散步
千秋郊聞蟲聲唧々千露叢亦一

佳興矣先生倘與僕之所企哉否
茲托寸毫以伺芳慮俯俟敏報焉

雅俗折衷体

昨今と風の音も余程秋深く覺
へ申候折柄は候へと野外散歩
に最上之好時節は付晚景よ
り近郊某地へ蟲聞かから曳筇
の意籌は候若御同意に候はゞ
此上もなき幸に候頓首

俗体

昔し心學といふもの盛さかんなり
 行ゆきいれ道仁先生鳩翁松翁
 かぞいへる人其道みちも名高なだか
 し此教このおしへいたつて至ちかて手近たぢかき諭さと
 譬たとへを取りて道徳だうとくを人ひとに諭さと
 す面白おもしろき學問がくもんあり今鳩翁いまきゆうわう
 道話だうわといふ書しよの中なかより其その
 一項いつじやうを摘記てききして同好どうこうの人
 小示せうしさん
 蟹螺かまどとヤす貝かいのて手丈夫てぢやうぶ
 亦また手厚てあつい貝かいでしかる丈じやう
 夫また亦また蓋たてがあるあるるるここで或ち

此頃このころ乃すなはち雨あめ故ゆゑか余よ程ほど秋あき景色けしきと相
 成な候ま然しかきは過あ日ひ中ちゆうより御約ごやく束そく
 の蟲むし聞き之の御催ごもよ一ひと今宵こんやあたりは
 如何いかに候まや御問ごもん合あは申ま上う候拜具まがひ
 (七十九) 全同行承引しやういん之文

漢体

賞しょう明月めいげつ於お曠野くわうや愛あい蟲ちゆう聲せい於お露叢ろそう皆みな
 是これ秋夜しゆうや之感興かんきやう也なり忽辱賜しやくもく誘引しゆういん只
 愧かひ乏ひた僕ぼく風流ふうりゆう之資し雖然しか然しか豈敢あ負お雅
 命めい乎や謹復きんぷく

雅俗折衷体

雨あめ後のちの涼氣りやうき實じつに凌しのぎよく候ま倍ばいは
 向むか島邊しまべへ蟲聞むしきこの御催ごもよにて御誘ごしゆう
 引ひ被下承知しやうち仕候しこう最早望さいざうぼう月づき近ちかく
 候まへは夜よるの詠えいも格別かくべつなるべく
 と存ぞんじ候ま後刻ごこく是これより參上さんじやう可致かぢ
 候拜復まがひ

俗体

蟲聞むしきこの事こと被れ仰下承知おほせ仕候しこう今日こんにち
 は殊こと更さら涼敷堤りやうしき乃すなはち千草せんそうよおく露つゆ

る蟹螺かまどが何なにぞといふと
 内うちから蓋たてはツシヤリま
 めて丈夫ぢやうぶ事ことじやと思おも
 ふて居ゐまする、鯛たうや鱈たが
 が羨うらやましがり、これ蟹螺かまど
 やおまへの要害やうがいの大丈だいちやう
 夫また亦またものじや、内うちから
 蓋たてをえめたが最期さいご、外そと
 からの手てがさせぬ、去さ
 りどての結構けつこうを身のう
 へじやといへば蟹螺かまどが
 髭ひげを撫なで、おまへ方かたが

其様よいふて呉れるけれど、余り丈夫な事も
ない、併しマア斯うして居ればまんざら難義
あこともないと思下自慢をして居ると、さつ
ふりと音がする、蟬蝶が内から急な蓋をまめ
てぐつと考がへて居ながら、今の何であつ
たまらん、網であらうか、釣針であらうか、

是じやよよつて要害が常としてないともうも
あらぬ、鯛や鱸の取られたかまらん扱ても心
許ない事である、シタガ先己れの助かつた
と、兎角するうち時刻も移り、モウ宜からう
とそつと蓋をわけ頭を
スツト差出してそこら
を見廻せば、何と無く
勝手が違ふやうか、よ

もいとゞ露けき秋の夜の風情
一入可深候
(八十) 時雨中間候之文

漢体

節属冬期亦加以雨之霏々更覺
一段之荒景足下近状如何僕幸
無異冀勿煩芳慮茲裁書問候
焉

雅雅折衷体

此頃は千草の花も皆枯果時雨

の空の濛々敷獨坐無聊
候貴下近ごろハ如何御起居に
候やちと御閑散
遊被下度候頓首

俗体

此頃の癖とは申あがら庭の紅
葉も籬の菊も皆移ひ行申候折
柄御動止如何に候や小生も至
つて物凄しくいとゞ物案じの
み致居候ちとく御來駕奉願

上候再拜

(八十一) 全復文

漢体

紅楓半散黃菊漸萎此時淫雨霏
々亦灑荒園獨坐垂頭百感咸生
豈料嘉問倏惠喜慰何言姑修寸
楮謝足下倦々語不多及

雅俗折衷体

如芳諭首冬連日乃雨脚實に鬱
悶之至に候折柄御尋問にあづ

かり万謝致候是よりこそ奉問
可仕の處重々恐入候明日參堂
万縷可申述候

俗体

如仰時雨の空の鬱陶とさ寂寥
一般の事は候私方にては夕刻
より例の社中共打集り運座即
吟相催し候先生は是非御出
席可相願存居候處へ幸ひ御尋
書故略儀ながら御報かた

くよく見れば魚屋間の
肴屋の店は此榮螺十六
文と正札付よあつて居
ました

大味ひある話あり油断
大敵といこれらをいふ
るべし

○水禽

平維盛ハ關東より攻登
る源氏の軍を防がんとて
東和道の富士川に出陣せ
しよ或る夜戦かよ水禽の

羽たゞさして夥しく飛び
騒ぎたるを源軍の夜討と
思ひ周章狼狽して都は逃
げ歸れりとして臆病者の例
よいつつも引き出されぬ

○温泉

温泉は名ある箱根の七
湯を初めとし熱海、伊香
保、磯部、草津、有馬、城の
崎、道後等あり我國は温
泉多き其土地火山脈よ
當り居ればあり

○夢
 夢の五臓の疲れをど、昔よりいひ傳ふ舊弊家の夢よりて吉凶禍福を卜ふの愚の甚きあり眠る前又食事をして胃を張らし又の甚しく心身を疲勞せしめたるどさ或の眠れらぬ強て寝たる時等、必ず種々の夢を見るものあり

御報知申上候間何卒御移玉の程奉待候也拜復
 (八十三) 賞雪誘引之文
 漢体
 曉起門外雪三尺瓊林玉樹實可謂奇觀乘此清景泛扁舟於墨水浴流縱所之將盡終日之清興君倘有意來會焉
 雅俗折衷体
 前宵の黍玉天地の間更無一點

かきよせといふ教育器具ありこれの三角形と圓形との七ツのこまを以て片假名平假名を自在に作り得るものとして兒童の觀物より極めて面白く且有益の具あり余が父或る繪師子店にて數十個を購ひ來り予が通學する學校に寄附せり

之塵候水邊の風景ハ猶更一段の奇觀と存ト候ま、篋笠を雇ひ酒肴を携へて貴契と共に墨江之堤畔に逍遙仕度存ト候御都合如何ハ候や啻に爐邊に蹲りて肯て同遊を拒むるか謹んで命を待つ頓首
 俗体
 夜來の大雪山にて今朝は一般の銀世界と相成候就てハ河邊の

船を見て其不完全にして
 危険あるは驚くあるべし
 然れども昔の人の此脆弱
 不完全の船を乗りて遠く
 海外へ航したること屢々
 あり今の人の堅牢便利な
 る蒸氣船のあるも拘ら
 ず海外へ渡航して利を計
 り業を起すもの少き何
 故ぞ昔の人の勇氣ありて
 今の人の臆病あるか豈嘆
 息の至りならずや

勝景さこそと察せられ貴君御
 奮發に候へば孤蓬短棹の風流
 相試度候伏て命を待つ頓首
 (八十三) 賞雪誘引之回文

漢体

獨開寒窓遙望四山皓々衝吟眸
 的礫疑是真銀世界也適辱芳墨
 命以泛舟陪遊之事僕何幸如之
 直涉雪赴尊命拜復
 雅俗折衷体

○支那國

支那の今清國と稱す其前
 の明といひ明の前を元と
 いへり斯く時よりて國
 名を更るの各國は其例あ
 り故に支那の歴史より時
 代よりて國名の異なる
 を見るあり

○日本國

日本の往古「ヤマト」ノク
 ニと稱し後大日本帝國
 と稱す萬世一系の天子國

俗体

曉來の白雪帳玉塵之光景河上
 泛舟の究竟の奇觀と存心候
 然るに今泛舟の盛舉は會ふ僕
 罷軟といへども豈諸君は後れ
 んや謹復
 雪中泛舟の御催し一入清興乃
 御事と存奉候此等の儀を原來
 小生望の事故即事拜趨御從行
 可相願候先は御返事まで早々

民を統御したまひ二千五
百余年の今に至るまで連
綿として絶るとある世
界万国は比類あるとあし

○朝寝

朝寝の人身に害あるとい
更々喋々の辯を要せず而
して其時間を徒消するの
損ハ又莫大あり今仮に毎
日一時間づゝ朝寝すると
せんに十日として十時間
の損あり一ヶ月より三十

(八十四) 雪中贈酒之文

漢 体

白雪紛々盈尺呈瑞雖然寒威亦
可畏也適有人贈酒一壺故折半
以送上兄台酌之而避寒威於醉
卿豈不快哉

雅俗折衷体

此間より寒氣一際相募候處果
して今朝ハ一白の銀世界と相
成候儲は此頃手製の濁酒漸く

時間一ヶ月より三百六十
時間とあり此を日數と換
算すれば十五晝夜とある

一時間の朝寝終一一年の
中半ヶ月を徒空と歸せし
む豈慎まざるべけんや

○車夫の立身

車夫として勳八等と叙せ
られ年金三十六圓を賜は
る、これ曾て露國皇太子
殿下が大津の急難を助け
参せる北賀向畑二人あり

相熟し候間少々許入御覽申候
頓首

俗 体

北風凜々飛雪漫々實に嚴敷寒
氣に候儲は家釀の粗酒今朝口
をあけ候間御初穂として一陶
晉献仕候倘防寒の一助とも相
成候ハハ僥倖の至候再拜
(八十五) 全回謝

漢 体

二人の榮譽の尙之に止らず皇太子より各金二千五百圓露國皇帝より各千金各千圓を賜われり車夫の名譽幸福前代未曾有あり抑何よよつて之を得たるか只一の誠意と勇氣とのみ

○芝居
芝居をよく見れば勸懲惡の具とあり悪く見れば淫奔淫惰の媒とある芝居

雪彈風鋒攻撃方殿實苦禦寒之策豈料倏辱賜最美之黃嬌孤坐幽床自生春矣多謝容面罄

昨夜よりの雪故の寒味殊更烈敷實に凌兼候折節豈圖らんや結構なる美酒御惠と被下何より難有禦寒の用に當申候後刻漫醉の上拜問御禮申上げべく候拜答

雅俗折衷体

俗体

雪寒の攻撃甚敷只々火閤の御閉籠を候處へ御家製の麴將軍御遣し被下一見直に勇氣を生お候后刻昇堂捷聞可申上候謹復

(八十六) 歲暮之文

漢体

隙駒如馳忽至歲除一年之光景恰如夢某品謹茲奉獻聊供歲晚

又善惡あるよあらず見る人の心これを辨別するよあり

○心
我心よて我心を制することを得れば過ち少し兎角照き方よ傾くを知りつゝもこれを撓ること能わざるものあり又我心の常よぐらくと變るが如きも自らこれを制し兼るが常人のからひあり故よある

人の歌よ

いく度かおもひ定め
てかはるらん、

たのみがたきの心る
りけり

と詠めりよく辨へておの
れに克つべし

○英里

我國の里程一里の三十六
丁よて一丁の六十間一間
の六尺あり英里といふの
英吉利の里程よして一英

之訊問而已莞存是祈余待革新
之日將有所縷述矣

雅俗折衷体

星霜推移彈指よりも速なり瞬
間曆尾に属す御繁忙御察し申
上候儲這小魚も甚だ輕微には
候得共歳暮御祝義の驗まで
晋献仕候頓首

俗体

最早無余日御忙敷御事に奉察

里の我國の十四町七十五
間余よ當る英里の「まい
る」といふ

○司馬温公

温公幼きとき他の兒童と
どもよ大なる瓶の傍よ
遊びしよ一兒誤りて瓶の
中よ陥りたり他の兒童と
れを見て大に驚き悉く
逃げ去りしが温公獨り去
らず徐よ傍ある石を拾
ひ瓶よ向つて投げ付けた

儲此品は粗末には候え共年尾
の御賀として晋上仕候謹言

(八十七) 全復書

漢体

如來示金烏流水亦屬歲除不圖
今蒙賜瑤章及盛儀欣悚交至雖
這品極菲薄敢煩貴价以送上僅
具還酬之饋冀莞容焉

雅俗折衷体

芳諭の如く今年も夢の如く相

れハ瓶破れて兒ハ水ト共
ニ流れ出で、命を全ふす
ることを得たり温公の智
と仁と普く人の稱するど
ころあり

○一の谷

平家一の谷ニ陣所を構へ
て源氏と戦ふと義経ハ
鶴越より三千騎を以て不
意ニこれを襲ひ遂ニ平氏
を西海の濤ニ漂せり鶴
越ハ人馬の通ぜざる懸崖

暮し申候秒冬御多忙の折柄御
心に挂られ珍奇の佳品御投惠
被下御深切の段不淺奉謝候此
品儲在に任せ聊奉酬の一端に
献呈仕候頓首

俗体

如尊命歳晩之繁多御同様の事
候備ハ例年の通御品々贈賜
り奉拜謝候何とも畧儀ハ候
へとも此品貴介を煩ハし不取

よして義経の嶮を恐れず
軍馬を逆落よして大功を
樹てたるハ死を顧みざれ
バあり

○藤吉

豊臣秀吉ハ漁師の子よし
て藤吉といひし頃松下嘉
平次ハ仕へし嘉平次嗣
丸の鎧を求めんとて藤吉
ハ金を渡し尾張ハ行きて
之を購はしむ藤吉其金を
以て出奔し自らの衣服腰

敢御返酬の兆までに尊覽ハ供
候余ハ來陽面接の時に草々
布謝

(八十八) 賀婚姻文

漢体

聞足下頃日擇佳日諧駕偶之歡
豈可不爲一賀哉僕踵門欲拜賀
俗務紛擾暫不能偷間故馳小走
獻青州一樽鮮鯛兩尾聊表千秋
欣喜之芹忱而已猶將面賀在近

の物を調へて織田信長よ
仕へ後天下を掌握するよ
至れり其智略膽才は賞す
べきも其行ひの學ぶべか
らず

○日曜日

日曜の學校休暇の嬉しき
か悲しきか一日の課業を
廢すと思へば悲し平常苦
學の勞を休ると思へば嬉
し嬉さも悲さも只平日勵
むと勵まざるごよあるの

不悉

雅俗折衷体

洞房華燭之夕無御滯御儀式被
爲濟候由忻慰不斜候偕不腆之
至は候得共乾脯一連御悅の印
迄は呈進仕度御納被下候は
本懷不過之候猶遠りらず昇堂
仕を鶴辭可申述候恐惶謹言

俗体

御婚姻御整之よし千鶴万龜目

み

○風船

輕瀛球の運用年々巧み
又成りこれよりて空中
又輕業を爲す至れり人
智の進歩驚くべし

○軍艦

我國の海軍の年々少から
ざる經費を出して軍備を
擴張し其軍艦の數も年々
逐ふて増加するを見る今
現在の軍艦中重なるもの

出度奉存候甚だ輕少には候得
共聊御悅之兆迄に晉呈仕候猶
期拜眉萬々可及祝賀候謹言
(八十九) 復謝

漢体

佳人嫁千才士謂之天緣僕不才
固非其人而所娶亦醜陋只供薪
水之勞耳豈圖蒙賜過當之祝儀
慚汗洽肩背謹領焉

雅俗折衷体

左の如し

高千穂艦	扶桑艦	天龍艦	葛城艦	筑紫艦	春日艦	清輝艦	龍驤艦	比叡艦	日進艦	滿珠艦	摩耶艦
浪速艦	大和艦	海門艦	東艦	天城艦	磐城艦	金剛艦	筑波艦	武藏艦	千珠艦		

僕此頃迎室之粗儀爲相濟候折柄速ニ祝辭を蒙り且御丁寧之御投惠に預り芳慮之程辱拜納仕候猶不日參堂万々可及鳴謝候謹復

俗体

所親之勸より荆婦呼迎候處早速貴聞に達し結構之品々御祝にあづかそ奉恐入候先は右御禮答迄草々頓首

○言葉

東京の人ハ火を「シ」といひ大坂の人ハ「ヒイ」と引張り奥州の人ハ「フ」といふ國々まで皆訛わり漫又他國人の言葉を咎め笑ふべからず
○親の心
親の子を思ふことの深さハ今更これをいふも思かあり余が友某瀧澤馬琴が著せる著作堂雜記を持

(九十) 賀出産文

漢体

聞頃夫人分娩而以設一好男兒豈可不欣賀哉想必非池中物他日才名可知也光絹一反僅以表嘉儀之微誠耳幸賜受容不日登階更可祝賀恐恭肅拜

雅俗折衷体

前宵に御内相御分身被爲在候由殊に御男子様にて御家門之

てり或日これを借覽したるは左の一文あり寫し取りて記憶又換ふ

社廟を聞て感あり

瀧澤馬琴

庚子四月十五日の朝杜鵑の初めて鳴くを聞く立夏後十日あり去年の立夏の日より鳴きぬ今茲の去年より十日後れたるの季候の遅速われはかり吾この鳥の聲を

御繁昌と恐賀し奉候随つて此胞衣粗品ながら聊御祝儀の兆まで供御覽候謹言

俗体

御内室様御事昨夕御安産被遊候よし殊に御男子様一て一段の御事と奉賀候即乍粗末御産衣一反御祝之兆まで奉入御覽候再拜

(九十一) 全返簡

さく毎又故兒琴嶺の事を思ひ出で、恨々たり物よりて懐舊の情ありと人皆しかり景よりて情起り情をもて景を思入脆き人の心あるかあ

○西郷隆盛

西郷隆盛の城山よて自殺したること隠れもなき事實あり然るは氏の尙西比利亞ありて露西亞の兵

漢体

昨舉一子眞所謂爲國家添一丁耳雖然犬豚之子則犬豚也豈望揚名聲顯父母之榮哉然而今得過當之稱賛恐慙交至不日拜登尙容印謝倉卒布復

雅俗折衷体

弊房昨夜分身亦竊に啼飢之累をかさんてを恐れ候其撫育成立後の憂なきを免るゝを得る

を訓練すといひ傳ふ英雄の身の上は付きてハ斯る風説を遺す例少からず源九郎義経ハ蝦夷より滿州韃靼入りて其國を征伐しその王とあるといひ鎮西八郎源為朝ハ八丈島より琉球へ渡りて國王とありしといふ前後相似たることをいひ傳ふるも奇なり

○數の名

も亦期すべからず候然るに早速御芳問にあづかり且つ滋養專一之御厚賜御鄭重の程辱奉拜謝候仍て駿速昇邸謝言可申演之處當下冗忙に制せられ失敬あがら單箋を以て貴報申上候也頓首

俗体

野婦分娩仕候處早速結構之佳品御祝被下幾久敷拜納仕候右

物の數をいふ品よりより稱へ同じからず用ゝ當りて差支ることありよりて今これを抄録して他日又備へんとす

魚ハ一尾、筆ハ扇ハ二本を一對、墨ハ一挺、酒ハ樽、簞笥ハ一棹、夜具ハ一襲、菓子ハ一折、手紙ハ一封、又一通、半紙ハ二十枚を一帖といひ、二千枚を一とらふ

御禮の爲即刻參堂之筈に候へ共取込中寸楮を以て報謝に及候也多罪々々

(九十二) 賀新宅文

漢体

崇樓巍々高聳雲外輪奐其美想當祥光映塔瑞氣滿樓令人盡望何其熾哉敬貢菲儀聊致賀私不厭其瑣々叱置幸甚

雅俗折衷体

袴一下、帶一筋、足袋下
 駄一足、壘一壘、蚊張
 提灯一張、織物一卷、
 書物一冊一卷一部、吳服
 木綿の二丈八尺を一端と
 いひ二端を一匹といふ、
 菜薪の類の一把、鏡視の
 一面、笛一管、机椅子一
 脚、懸物一幅、屏風の二
 つを一雙、鳥一羽、牛馬
 一匹又一頭、藥茶一服、
 箸一筋、車一輛

大厦卜築新ま成る是はより花月
 の全權御占有の御事と御羨と
 く奉存候定ま瑣尾の至耻入候
 得共香魚脯一籃御祝志之印迄
 に晋呈仕候御莞存奉冀候謹言
 俗体
 豫て御着手之御新宅御落成ま
 付御引移之よし奉欣賀候御庭
 其外之御風流致想像候何れ近
 日拜見旁參上可仕候頓首

この外一連一束一重一枝
 一包一臺一個等の名あり
 各物より用ひかた異さ
 りと知るべし
 ○苗字
 余が父の朋友中其苗字の
 讀み難きもの數多あり之
 を記懸するに甚だ苦めり
 今其致へられたるもの數
 氏を記して備忘と爲す
 (5)伊良子、伊知地、伊
 集院、員部、猪熊、五十

(九十三) 全復章
 漢体
 僕性愛幽閑故卜宅於此地亦鷓
 鷓巢於深林之意耳今忽辱瑤札
 及佳贖感謝不盡新居雖僅不過
 容膝頗有閑幽趣不日將開一會
 屈諸友請勿吝如期日可別報再
 拜
 雅俗折衷体
 少しく草廬を構ふ仰て燕翼を

嵐(ろ)六池(は)秦(は)榛原(は)
 崎(は)伴(は)服部(は)芳賀(は)英(は)春(は)
 海(は)部(は)榛澤(は)土師(は)植生(は)
 蜂須賀(は)長谷部(は)間(は)丹(は)
 波(は)錦織(は)丹生(は)蜷川(は)波(は)
 種積(は)帆足(は)保科(は)寶生(は)
 (へ)邊見(へ)外山(へ)十倉(へ)
 戸部(は)外村(は)得能(は)富小路(は)
 (ち)千種(ち)長曾我部(ち)千田(ち)
 (ぬ)額田(ぬ)賀名(ぬ)糠田(ぬ)を
 荻野(は)荻生(は)刑部(は)小幡(は)越(は)
 智(は)大須賀(は)大伴(は)愛宕(は)

垂る數椽の造作聊か凌雨露林
 泉の望を遂候耳然ながら近日
 弊園百花爛熳一際し候間其節
 は小酌相催し候て尊駕を相屈
 すべくと存じ居候御返酬まで
 如此に御座候拜復
 俗体
 容膝之蝸廬出來の處早速之御
 寵章奉謝候近日一會相催し度
 其節又々可申上候先は御禮ま

(わ)亘(わ)和久(わ)波曾(わ)か(わ)高(わ)
 川(は)河野(は)可兒(は)河鱈(は)文野(は)
 風早(は)葛西(は)葛飾(は)糟谷(は)蒲(は)
 牛(は)蠣崎(は)楫取(は)各務(は)樺山(は)
 (よ)善積(よ)興謝(よ)依田(よ)た(よ)
 多田(は)高科(は)田能村(は)館(は)多(は)
 々良(は)伊達(は)そ(は)十合(は)會我(は)
 部(は)會於(は)敷(は)つ(は)辻子(は)佃(は)
 九十九(は)圖書(は)ね根(は)根來(は)
 (な)半井(な)那波(な)名和(な)那(な)
 賀(は)ら(は)頼(は)ら(は)宇道(は)鶴殿(は)
 宇佐美(は)海野(は)有年(は)雲林(は)

如此御座候頓首
 (九十四)病氣慰問之文
 漢体
 邇聞足下失調特偶罹霜露之疾
 耳豈心恙哉想數日珍攝茲奉微
 物以表慰問君其尙勿却焉
 雅俗折衷体
 頃日御不快の由承はり居候へ
 共未るの候問を遂申さず遺憾
 此事に御座候之に依て甲州葡

院、氏家、(の)野依、野呂、
 (く)來島、草加、日下部、
 鍛形、朽木、吳、(や)矢代、
 屋代、柳生、梁田(ま)間瀬
 眞部、蒔田、枚田、曲直瀬、
 眞野(け)氣田、見學、(ふ)
 深谷、文屋、伏田、福地、古
 谷、(こ)近藤、金春、五代、
 今、(に)遠上、榎並、榎森、
 榎本(て)豊島(わ)阿矢部
 飛鳥井、吾孫子、吾川、吾
 妻、朝明、朝夷奈、綱代、櫻

葡一籠甚だ粗末おがら御慰問
 の驗まで晉呈之仕候余は近
 日御見舞の上申上べく候頓首

俗体

御不快之よ承り候定て御當
 分の事とは奉存候得共兎角不
 順之季候御養生專一に奉祈候
 猶近日伺候御見舞可申上候謹
 言

(九十五) 全復章

庭(さ)佐伯、三枝、五月
 女、早乙女、雀部、早月、
 税所(き)衣笠、喜連川、
 (ゆ)山井、遊佐、綾木、
 結村、勤(め)免受、妻鹿
 目賀田(み)三宅、御厨、
 御手洗、三瓶、箕作(し)
 鹿田、椎木、篠田、正田、
 穴戸(ひ)日置、日向、比
 企、兵頭(も)茂木、茂呂
 望月、十五月、採田(せ)
 石部、澄見、千手院、關

漢体

前者偶冒寒暑頼庇醫士善治病
 根一旦脱去第新起不獲造調辱
 存問神情愈覺怡然矣故敢勿勞
 桂懷幸有余隙夜來敲華門焉

雅俗折衷体

痴生偶罹微患牀蓐に平臥罷在
 候處へ御深情之芳問且適口之
 美果被惠下奉拜謝候御蔭よ
 り病体日増し精力醫藥頗る

谷(す)須賀、菅谷、周布
陶、岡田、鈴鹿、

○富士山

富士山の其形恰も扇を

倒懸けたるが如くよし

て頂上常々雪を戴き大暴

のどきと雖も消るとあ

し其容の秀美ある地球

上と比すべきものなし

○食物

食物の身体を養ふ必要

あり然れどもこれを食ふ

と多きと過ぐれば却て害

あり少きも亦害ありとす

故に古人も腹八分目とい

へり常々八分の食を爲す

を以て適度とす

○神童

幼みして才能群を優れ智

識藝術人を驚かすものこ

れを神童といふ然るも此

神童成長して後名を顯し

すもの甚少しこれ何故

ぞ幼時の才藝を満足して

驗を得候間定まり以て憚りく被
存候永々の御悃情豈感佩せざ
るべけんや肅而端謝

俗体

得疾平臥罷在候處へ御親切之
御見舞被下難有奉存候昨今大
きま快方に趣候間先は御放神
被下べく候其内參上御禮可申
上候謹復

(九十六) 賀病氣平癒文

漢体

向聞貴体不豫生亦爲鬱然於心
今則知有起色寧不大開笑顏乎
茲供芹儀敬賀焉

雅俗折衷体

尊恙の由承り御案じ申上候處
早速之御快方被爲在候趣承知
仕恐悦不斜候小鮮兩尾御悦ひ
の爲厨下に供呈仕候御笑留可
被下候謹言

俗体

過日中より御不快の處速に御
全快被遊本日より御床上之の
よし恐悦這事候右御悦申上
度勿々再拜

(九十七) 全答書

漢体

臥病數旬幸不至危篤頃漸有起
色矣過承存念眞休戚與同者也
欣慰々々將屈足下催祛褥之一

遂に勉強せざるが爲あり
神童賞するに足らず余の
只大器の晩成するを愛す
○新井君美
君美ハ白石と號す幼より
穎悟三歳よして能く大字
を書し人をして驚嘆せし
む七歳のとき藩侯に仕へ
常々君側へ侍して書札の
事を掌れり此れ神童あり
神童長ずれば概ね平凡の
人である獨り白石の然ら

宴仰俟照臨

雅俗折衷体

長々病氣中ハ屢々預御仁問御
厚情之程感激仕候尙亦今日祛
尊之御祝義とて腆腴之御投
與に預り千萬之謝言にも盡し
難く候借明日午後より知己の
諸子を招待致し所謂収禱之小
宴相催度候間何卒御都合の上
暫時あり共御照臨に預り度伏

す成長するに及んで其名
彌顯なる此れ其幼時の才
能を以て自ら足れりとせ
ざればあり
○苗
五月雨の田苗を植えそめ
てより實を結び樹もて量
るに至るに五ヶ月の後よ
あり其間の天變地異測り
知るべからずしかして粒
々辛苦するにあらざれば
これを得難し農家の艱難

て奉懇願候謹言

俗体

病氣中へ度々御尋問且今日床
上仕候處早速御祝書預り辱
奉存候夕刻より小酌相催す手
筈いたし置候間御迷惑と存
候へ共御來車被下候様偏に
奉祈候頓首

(九十八) 招醫者之文

漢体

思ひ遣るべし

○學資

よき學問を爲さんとする
は必資金をも多く費やさ
ざるべからず汝が今學校
に通ひ得るハ父兄より學
資を給せらるればあり學
資の容易く得らるゝもの
よわらず汝もし月々父兄
より惠まらるゝ小遣を無益
の事用ひず些づゝもて
もこれを貯へおかべ一ハ

成長の後高尙の學問を爲
すときの學資を補ふ足
り一ハ父兄の責任を輕う
することを得べし試に毎
月五十錢づゝを郵便局よ
預るとせよその計算ハ左
の如くあるべし

初年 六圓十一錢五厘

二年目 十二圓四十八錢九厘

三年目 十九圓十三錢

僕卒患暴邪寒熱相厄坐臥甚不
安利故敢煩國手即刻移玉被回
春於指下一僕幸無甚焉脫然使得
愈是感

雅俗折衷体

野生儀昨夜より遽に惡風を致
し項背急に強を更し汗なく實
に困却仕候就てハ何共卒爾不
敬し候得共御出興之御途次
貴轄を枉られ御一診可被下候

一厘
 四目年 二十六圓〇五
 錢八厘
 五年目 三十三圓二十
 七錢八厘
 六年目 四十圓〇八十
 錢〇四厘
 七年目 四十八圓六十
 五錢
 八年目 五十六圓八十
 二錢八厘
 九年目 六十五圓三十

若御承了被下候は、僂倅實まじ
 這事に候頓首

俗体

豚兒事昨夜より俄は寒熱甚敷
 頗る煩悶の体に相見候間何共
 恐入候え共御回診之序を以て
 御來臨御診察之程奉希上候頓
 首

(九十九)全答復

漢体

五錢四厘
 十年目 七十四圓二十
 四錢二厘
 以上の元金又年々増し加
 ふる利子を合せたる金額
 あり
 ○日本の大河
 我國の大河の利根川信濃
 川木曾川を最としこれを
 二大河と稱す其他太井川
 富士川、坂田川、阿武隈川
 等のこれより亞ぐものあり

遠使至啓雲緘誦讀知貴体偶爾
 不快即當趣視奈偶爲外務所
 阻請俟須之晚來必趁候矣

雅俗折衷体

御賢嗣御病氣之趣、御心配
 之程奉推察候只今病室取込何
 分至急の調薬よ取掛居候間暫
 時御猶豫奉祈候拜復

俗体

御令息御不快之よし御難義奉

○世界の大河
地球上の大河を數るは北
亞米利加州合衆國の「ミ
スシッピ」河を第一と
し次に南亞米利加の「ア
マゾン」川、埃及國の「ナ
イル」河、支那の揚子江西
比亞の「エニセイ」河支
那の黄河、西比亞の「フ
ル」及「レナ」滿州の黒龍
江等也「ミスシッピ」河
の其長流千六百四十余里

察上候幸ひ序も有之候間即刻
參診可仕候拜答
(百) 賀入學文
漢 體
聞令肖入某校而學凡人可稱
眞成人者唯學問耳學不可以不
講豈可不賀乎後來必爲天下之
泰斗矣
雅俗折衷體
掌珠御事追々御年齡に付這回

里より達し其他皆一千五百
里より一千里に至る
○松平信綱
松平信綱の徳川氏の名臣
あり或人此人の幼時の事
を語り少年の飛鑑とす
るは足るものあれば左よ
筆記しおけり松平信綱幼
き時阿部忠秋等と俱に世
子家光に近侍せり世子或
時雀の雛の家根に在るを
視て左右の侍臣に捕へよ

某學校へ御入學之由欣喜之至
に奉存候御性質御發明に被爲
入候間屹度御成功可被遊候石
盤一面筆一箱御祝儀の驗まで
に晋呈致候猶其内參堂御學業
御進歩之程拜驗可仕候頓首
俗 體
御令息様御事御入校乃よ元
來御器用之御性質行々は天晴
之御顯功も可被遊と奉想像候

と命ず而るも其離の巢ふ
所の將軍秀忠公の寢所の
屋根なれば近習ども畏れ
て往くことを欲せず信綱
の傍に在るを見て世子よ
向ひ年少く身輕きもの
屋根に登るも便りよけれ
ば信綱こそまことよ其任
も適すべしと申すより
遂に信綱も命ぜらる信綱
已むことを得ずして其夜
家根に登りて雀の兒を搜

右御祝辭申上度禿筆如斯し御
坐候

(百一) 全還章

漢 体

頃入願兒干某校以令學上大人
豈圖蒙過當之賞譽慚愧々々來
月將拉兒與登高邸以述謝辭勿
々裁答

雅俗折衷体

被爲桂芳慮豚兒入學之御祝書

し索めしが誤て足をすべ
らし御庭の内も落ちたり
しかば秀忠公何事あらん
と戸を開きて見玉ふも信
綱あり何故も夜深も屋上
も登りしぞと問ひ玉ふ信
綱雀の兒はしきと登りた
りと答ふ秀忠公重ねてそ
の汝が心より出たるもの
あらで必ず汝も命じたる
者あるべしそれを申せと
て責め玉へども信綱實を

に預り難有奉謝候年に似合す
一向の愚鈍し候間折々御教訓
の程奉冀候頓首

俗 体

悴事入學仕候處過當之御稱譽
深羞之至に候猶此上とも御垂
訓之程奉願上候謹復

(百二) 祝官仕之文

漢 体

聞足下辱官撰鞠鞠廟廊僕窃爲

いはず秀忠公怒りて信綱を大なる囊に内れて柱に懸け汝實を吐かず何時までも此囊より出ること
を允るさずとてその儘をかき玉ふ公の夫人切み請ふて終に放さるこのとき
公夫人は語りたまふやう他日我兒を補翼して忠を竭し天下を治めんもの信綱からんどのたまひける後果してその言の如く

天下賀之豈不可謂螢雪刻苦之結果乎自今黽勉盡心國事政績之著朱紫之榮可刮目而俟已故不願迂腐恭呈寸簡以賀焉

雅俗折衷体

先生今回御拔擢にて官務御奉命被爲在候由御慶福之至奉存候是皆全く積學余蘊之結果左も可有と奉存候右登邸の上御祝辭可申上の處紛冗中乍失

ありし

○孝經

孝經又曰

立身行_レ道揚_二名後世_一以顯_二父母_一孝之終也

とこれを譯すれり

身を立_テ道を行ひ名を後世に揚げて以て父母を顯へすの孝の終あり

○猫

猫の鼠を捕ふるの性あり人の業を勵むの務めあり

敬以_二短簡_一申上候恐惶謹言

俗体

貴君今回某職に御奉命之よしく全く多年御勉強之致す所と欣羨仕候這一品淺微之至に候へ共聊か寸衷を表し候耳再拜

(百三) 全謝文

漢体

迂腐小生誤蒙官撰鄙心不甚安也來示之過賞固僕所不當也雖

猫ハ鼠を捕へて其飼主ヲ
 譽めらるゝとあしど雖も
 敢て其性を廢するとあし
 人の業を勉むるもの主父
 の譽るとあければ怨みて
 其業を怠るこれ人よし
 猫もだも若かざるあり
 ○松樹
 余が家の後、數反の松林
 あり枝葉繁茂して四季緑
 を爲す余、他の春秋、盛
 衰を爲す植物よりも常

然亦應小心翼翼々々謹守畫一勉少
 過咎也公事鞅掌無暇詳報伏冀
 海函
 雅俗折衷体
 樗散之才を以て叨り、重職に
 僥倖致候事唯愧赧を増のみ、
 御座候然るに溢美之御稱譽敢
 て當り難く候へ共万事、注意
 し小心翼翼々々過舉の嗤笑を免る
 べき様可仕候謹復

此松樹を愛す四季、其色
 をかへざればあり
 ○竹の子
 今朝朋友の許より、竹を贈
 らる所謂孟宗あり孟宗ハ
 母の爲、雪中、筍を掘る
 故、此名ありといふこれ
 を食ふ、當り孝子を追想
 して覺えず涙下れり
 ○夏と冬
 夏と冬と何れかよき古今
 學、屬むもの三冬を恐れ

俗体
 私事短才無智之處不存寄高職
 拜命全く以て僥倖之至と汗顔
 罷在候處過分之御賛辭及び鄭
 重の芳儀、あづかり實、畏縮
 之外無御坐候拜復
 (百四) 賀開店文
 漢体
 聞君開肆於某街、多鬻海外之
 雜貨寶肆宏開財源湧躍陶朱猗

す炎暑を厭はず然れども
 三冬の嚴寒の凌ぐも易く
 三伏の酷暑の倦み易し故
 又冬をよしとす學校も夏
 季の休業ある宜からずや
 ○旅行
 暇あらば旅行の志たさる
 のかり旅すれば見聞を擴
 め知識を増すの功益あり
 然れども余輩學業も進歩
 さるもの人の紀行を見る
 を以て最大の樂事とあせ

頓指日可期謹賀焉
 雅俗折衷体
 豫て御計畫の商業御基立之由
 必らず時風恰好の御工夫候
 へば御繁昌の御事と奉遠察候
 必き壘斷之奇利を占らるべく
 と欣羨の至に不堪候先右御
 祝詞申述度如此御座候
 (百五) 全返章
 漢体

り濹澤氏近江旅行の紀あり
 書して他日遊覽の時の
 樂と爲さんと欲す
 七月廿一日から崎の松見
 んとて、未明又京をたち
 て、白川越をす、湖水の眺
 望いづれのあれど、白川
 のどほげより見るをよし
 とす、三井寺これ又亞ぐ、
 世も近江八景の畫圖多し
 といへども、まのあたり
 見るとい道は劣れり、八

漫開小肆僅逐蠅頭鄙心甚慚之
 今忽賜芳緘預溢美之稱譽豈可
 任慙汗乎鈍筆不絮
 雅俗折衷体
 坐食空手固より人民之慙な
 り故よ今一商店を開き以て後
 來力食の基礎を肇めんと致し
 候然るに過分の御祝辭實は難
 有仕合一層奮發取續方可仕候
 就ては今夕聊か祝宴の僞事致

景ありさること互は遠し
 白川山より見れば一瞬千里、然れども比良の右まかくれて、堅田矢走も晴れざれば、見わけ難し、この好景誰くとも筆及及難く述るとも詞は又濁し難く、近く見てますく嬉しきもの石山と唐崎の松あり、北より南よさす枝丹間ばかり、東より西よ至て甘間餘幹の二か、

候につき御光臨の程奉願上候
 頓首
 俗体
 弊店這回開業の處早速之御芳書辱奉存候何卒御相識之諸君へも御吹聴御愛顧之程呉々奉希上候先ハ右御返事まで恐惶拜復

(百六) 問火災文

漢体

へ又餘れり、木の丈高からずして、まん丸又生茂り、洛陽妙心寺の松、及び住吉辨波屋の松、いづれもよしと雖も、唐崎の松又對して同日の論又非ず實又天下の一つ松あり傳又いづく、唐崎の松枯たりし時、明智光秀滅ぶかふとて
 わが外またれか植けん
 一ツ松心して吹け志賀

昨宵某街祝融暴怒而余威及高崇實不堪駭愕也數里之距離全失望觀故不往救多罪豈可堪謝乎謹獻雜器一轄幸爲厨下用具榮無甚焉

雅俗折衷体

昨宵ハ不慮の大火よて玉宇までも御類焼の御事實一驚を喫し申候然しおから御家族皆々様御別條なく御立退被遊候